

# リアホナ

表紙の記事

永続する礎を築く  
12ページ

水と火によるバプテスマ  
18ページ

結婚生活の問題に挑む  
28ページ

魚釣りをしよう  
「フレンド」12ページ

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)  
大管長会:ゴードン・B・ヒンクレー, トーマス・S・モンソン,  
ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会:ボイド・K・パッカー, L・トム・ベリール, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オークス, M・ラッセル・バラード,  
ジョセフ・B・ワースリン, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホルランド, ヘンリー・B・アイリング,  
ディーター・F・ワークトドルフ, デビッド・A・ベドナー

編集長:ジェイ・E・ジェンセン

顧問:モンティ・J・ブラフ, ゲーリー・J・コールマン, 菊地良彦

実務運営ディレクター:デビッド・フリッシュニク

編集ディレクター:ビクター・D・ケーブ

主任編集者:ラリー・ヒラー, リチャード・M・ロムニー

グラフィックスディレクター:アラン・R・ロイボーク

編集主幹:ビクター・D・ケーブ

編集主幹補佐:ジェニファー・L・グリーンウッド

副編集長:ライアン・カー, アダム・C・オルソン

編集補佐:スーザン・バレット

編集スタッフ:シャナ・バトラ, リンダ・ステール・クーバー, ラリー・  
ポーター・ガート, R・バル・ジョンソン, キャリー・カステン, メルビン・  
リービット, サリー・J・オデカー, ジュディス・M・パーラー, ビビアン・  
ポールセン, サラ・R・ポーター, ジェニファー・ローズ, ドン・L・サー  
ル, レベッカ・M・テラー, ロジャー・テリ, ジャネット・トーマス, ポール・  
バンデンバーク, ジュリー・ワーデル, キンバリー・ウェッブ

主任秘書:モニカ・L・ディッキンソン

編集インタン:ブリタニー・ジョンズ・ビーム, ニュール・セイモア

マーケティング部長:ラリー・ヒラー

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:スコット・バン・カンペン

制作主幹:ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ:カリ・R・アロヨ, コレット・ネベカー・オース, ハ  
ワード・G・ブラウン, ジュリー・パーデッド, トーマス・S・チャイルド, レ  
ジナルド・J・クリステンセン, キャスリーン・ハワード, デニス・カービー,  
タッド・R・ピーターソン, ランドール・J・ピクストン,

印刷ディレクター:クレーク・K・セジウィック

配送ディレクター:クリス・T・クリステンセン

●定期購読は、『リアホナ』注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替  
(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-  
41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵  
送いたします。●『リアホナ』のお申し込み・配送についてのお問い合わせ  
……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キ  
リスト教会 管理本部配送センター 電話 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会  
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30  
電話 03-3440-2351

定 価 年間予約/海外予約 1,800円(送料共)  
半年予約 1,200円(送料共)  
普通号/大会号 200円

『リアホナ』への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。  
Room 2420, 50 East North Temple Street,  
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA  
電子メール:liahona@ldschurch.org

『リアホナ』(モルモン書)に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下  
の言語で出版されています。

アイスランド語, アルバニア語, アルメニア語, イタリア語, インドネシア語, ウクラ  
イナ語, 英語, エストニア語, オランダ語, 韓国語, カンボジア語, キリシ語, クロ  
アチア語, サモア語, シンハラ語, スウェーデン語, スペイン語, スロベニア語, セ  
ブア語, タイ語, タガログ語, タヒチ語, タミル語, 中国語, チェコ語, デルグ語, デ  
ンマーク語, ドイツ語, トンガ語, 日本語, ノルウェー語, ハイチ語, ハンガリー語,  
フィンランド語, フィンランド語, フランス語, プルガリア語, ベトナム語, ポーランド  
語, ポルトガル語, マーシャル語, マダガスカル語, モンゴル語, ラトビア語, リト  
アニア語, ルーマニア語, ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2006 Intellectual Reserve, Inc. 版權所有。印刷:日本  
『リアホナ』に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭におい  
て臨時に、また非常利目的に使用することは複製することができます。  
視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている  
場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、  
Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street,  
Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電子メール—  
cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。  
英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月  
原題—International Magazines August 2006,  
Japanese. 26988 300

『リアホナ』は、教会のホームページwww.lds.org(英語)に様々な言語で  
掲載されています。英語の場合は“Gospel Library”(福音図書館)をク  
リックしてください。その他の言語は世界地図をクリックしてください。

**For Readers in the United States and Canada:**

August 2006 no. 8 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is  
published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East  
North Temple, Salt Lake City, UT 84150, USA. Subscription price is \$10.00 per  
year; Canada, \$16.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt  
Lake City, Utah, and at additional mailing offices. Sixty days' notice  
required for change of address. Include address label from a recent issue; old  
and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions  
and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription  
help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American  
Express) may be taken by phone. (Canada Poste Information:  
Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center,  
Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

一般

- 2 大管長会メッセージ——霊の開拓者たちに導かれ 第一副管長 トーマス・S・モンソン
- 9 「わたしもポール・コーリカーです」 七十人 ポール・E・コーリカー
- 10 完全な福音——人生の目的
- 18 聖霊の賜物——全会員が知っておくべきこと  
十二使徒定員会会長代理 ボイド・K・パッカー
- 25 家庭訪問メッセージ——家族を守る
- 28 夫の悪習 匿名
- 34 主の召し 七十人 ウィリアム・R・ワーカー
- 40 末日聖徒の声  
真理を見いだすまで  
トリニー・ジョベル  
ベッツィーのためにバイオリンを  
ジェシカ・マルティネス  
「君を見ていたんだ」  
リン・ジェンセン
- 48 読者からの便り

2 霊の

開拓者たちに  
導かれ



表紙

写真/アダム・C・オルソン

「フレンド」表紙

写真/R・バル・ジョンソン

家庭の夕べのためのアイデア

クラスや家庭において、『リアホナ』を  
使ってより効果的に福音を  
教えるために、このページ  
に提案されているアイデア  
を役立てることができます。

「聖霊の賜物——全会員が  
知っておくべきこと」18

ページ——数枚の紙に  
それぞれ、なじみのあ

る物の絵や、有名な言葉などを書き、  
半分に折ってください。紙の半分を見  
せ、もう半分に何が書いてあるかを家  
族に考えさせてください。記事の中  
に出てくる預言者ジョセフ・スミスの  
言葉を読み、なぜ水のバプテスマだ

けでは不十分なのか話し合っくだ  
さい。記事を項目ごとに家族に割り  
当て、各項目が聖霊についてど  
のようなことを教えているか  
説明させてください。

「遊泳禁止区域での  
サーフィン」26ペー

ジ——紙で警告標識  
をいくつか作っくだ

さい。物語を読んでから、家族  
に標識に合った標語を書かせてくだ  
さい。聖文、総大会、『若人の強さの  
ために』、地元の指導者などの言葉か  
ら、ヒントが得られるでしょう。家中の  
あちこちにその標識を掲げましょう。



## 青少年

- 12 パナマで成長する  
若い女性  
アダム・C・オルソン
- 16 神への務め——  
霊的なとりでを築く  
アダム・C・オルソン
- 26 遊泳禁止区域でのサーフィン  
グレッグ・バーゴイン
- 32 ロシアの列車の中で  
アミリン・ウーリー・レイノルズ
- 39 ポスター——  
空回りしていませんか？
- 44 質疑応答——  
人生はどうしてこんなに  
厳しいのでしょうか。  
試練のない日は訪れるのでしょうか。  
どうしたら試練に耐えられるでしょうか。
- 47 御存じでしたか？



### 12 パナマで成長する

若い女性



今月号のどこかに隠れている  
CTRリングを捜しながら、  
いつも祈ることを忘れないでください。

**【主の召し】** 34ページ——何枚かの紙に様々な教会の召しを書き、家族に配ってください。その召しを果たすためにどのような奉仕ができるか、家族に一つずつ例を挙げさせてください。遠藤大兄弟の話をしてください。遠藤兄弟は、「どこで奉仕するかではなく、いかに奉仕するか」が大事なことであると証しています。記事の最後の項目を読み、その原則に従うよう家族にチャレンジしてください。

**【信仰こめて、一歩ずつ】** F2ページ——紙の上に両方の足の跡を写し、それぞれの足跡に「信仰をこめて、一歩ずつ」と書いてください。ジャイル

ズ兄弟が生涯を通してどのように信仰を働かせたかを話してください。左右の足跡の間に、わたしたちが経験するかもしれない試練を書いてください。これらの試練に直面したとき、どのように信仰を働かせることができるか家族に尋ねてください。

**【ジェレドの日記】** F8ページ——家庭の夕べに自分の日記を持って来るよう家族に言ってください。日記帳を持っていない家族には紙を渡します。この物語を朗読してください。アロンやジェレドがしたように、絵や文字で、その日の日記を書かせてください。日記をつけることの大切さについて証してください。

## フレンド

- F2 預言者の声——信仰こめて、一歩ずつ  
第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト
- F4 分かち合いの時間——せいぶんは道をしめします  
リンダ・マグレビーとエリザベス・リックス
- F6 ウィルフォード・ウッドラフだいかんちょうのしょうがいから——みたまに耳をかたむける
- F8 ジェレドの日記 リリア・M・クラウチ
- F11 特別な証人——だれでしょう？
- F12 日曜日ボックス——旧約聖書のつりゲーム
- F14 友だちになろう——福音に雄々しく  
ブラジルのレシフェに住む  
ドウラード家の、エドワルドと、マリアナと、マルセーラ  
R・パル・ジョンソン

### F8 ジェレドの日記



### 今月号に採り上げられているテーマ

Fは「フレンド」の略

証	32	初等教会	F4
安息日	43, F12	試練	44, F2
イエス・キリスト	2	信仰	10, 16, F2
ウッドラフ、ウィルフォード	F6	進歩	12, 16, 39
音楽	41	救いの計画	10
改心・改宗	18, 40	「成長するわたし」	12
開拓者	2	聖文研究	F4
家族	25	聖霊	18, 41
家族歴史	9	選択の自由	26
家庭訪問	25	伝道活動	32
神への務め	16	日記	F8
旧約聖書	F12	バプテスマ	18
悔い改め	28	福千年	47
結婚	28	奉仕	34, 41
死すべき状態	10	ボルノグラフィ	28
自制	F14	召し	34
使徒	F11	目標	12, 16
指導性	2, 34	模範	12, 16, 43
従順	10, 26, F4	勇気	2, F14
		靈感	18, 28, 41, F6



# 霊の開拓者たちに 導かれ

第一副管長

トーマス・S・モンソン

**今**年の夏は、ブリガム・ヤングの靈感あふれる指導の下に開拓者たちがグレート・ソルトレーク盆地に到着してから159年目に当たります。ブリガム・ヤングはそのとき、こう宣言しました。「まさにこの地である。さあ、前進しよう。」<sup>1</sup>

わたしたちは常々、この歴史に名だたる大移動を指揮した偉大な人々、また彼らに従ったすばらしい人々をたたえます。しかしわたしは、彼らより前の時代に苦難の道を歩んだそのほかの「開拓者」にも注意を向けてほしいと思います。そのためにまず、辞書に載っている「開拓者」という言葉の定義についてしばらく考えてみましょう。その定義とはすなわち、「先立って行き、ほかの人々のために従うべき道を備える、あるいは切り開く人」<sup>2</sup>です。

時計の針を少し戻して、ほかの場所へ旅立ってみましょう。そうすれば、「開拓者」という言葉が持つ高い標準に見合う、様々な人に出会えるかもしれません。

そのような人物の一人にモーセがいます。パロの宮廷で育てられ、エジプト人のあらゆる知恵を学んだこのモーセは、言葉にも行いにも力ある者となりました。偉大な立法者で

あるモーセと、彼が神から託されたあの石の板とを切り離して考える人はいないでしょう。そこには十戒が刻まれていました。わたしたちはこの十戒の教えに、当時も今も、従うよう求められています。

モーセが信頼していた民の中には、かつての生活に戻ろうとする者たちがおり、彼はそのことで絶えず悩まされていました。モーセはそうした人々の行動に失意を抱きながらも、彼ら、つまりイスラエルの民を愛し、エジプトでの奴隷の境涯から導き出したのです。確かにモーセは開拓者と呼ぶにふさわしい人物です。

次に開拓者と呼ぶにふさわしい人物は、ルツです。ルツはしゅうとめのナオミに同行するために、同族の人たちや親族や故国を捨てた人物です。そしてエホバの地でエホバを礼拝し、エホバの民に倣って生活したのです。

ナオミに従順であることは、実に重要な意味がありました。その従順の結果、ルツはボアズと結婚し、ルツ自身は異国の民モアブ人の改宗者でありながら、ダビデの曾祖母となります。つまりはイエスキリストの先祖となるのです。

聖書にはルツの名前を冠した書がありますが、その表現は詩的で、ルツの決意と勇気がうかがえる文体で書かれています。「ルツは言った、『あなたを捨て、あなたを離れて帰ることをわたしに勧めないでください。わたしは



モーセが信頼していた民の中には、かつての生活に戻ろうとする者たちがおり、彼はそのことで絶えず悩まされていました。モーセはそうした人々の行動に失意を抱きながらも、彼らを愛し、エジプトでの奴隷の境涯から導き出したのです。確かにモーセは開拓者と呼ぶにふさわしい人物です。



あなたの行かれる所へ行き、またあなたの宿られる所に宿ります。あなたの民はわたしの民、あなたの神はわたしの神です。

あなたの死なれる所でわたしも死んで、そのかたわらに葬られます。もし死に別れでなく、わたしがあなたと別れるならば、主よ、どうぞわたしをいくえにも罰してください。』<sup>3</sup>

確かにルツも、この気高いルツも、開拓者の一人でした。

ほかにも開拓者と呼ばれるにふさわしい信仰深い女性たちがいます。例えば、イエスの母のマリヤ、マグダラのマリヤ、エステル、エリサベツといった女性たちです。また、アブラハム、イサク、ヤコブといった人たちも見落とすわけにはいきません。さらに、イザヤやエレミヤ、エゼキエル、そして後代の預言者たちも忘れるわけにはいかないでしょう。

### 先に歩んだ者

バプテスマのヨハネも忘れてはならない人物です。ヨハネの衣服は質素で、その生活は簡素で、そのメッセージは簡潔でした。ヨハネのメッセージとは、信仰と悔い改めと水に沈めるバプテスマ、それに、ヨハネ自身が授かっている権能よりもさらに偉大な権能を持つ御方によって聖霊を授けられるというメッセージでした。ヨハネはこう宣言しています。「わたしはキリストではなく、そのかたよりも先につかわされた者である。』<sup>4</sup>「わたしは水でおまえたちにバプテスマを授けるが、わたしよりも力のあるかたが、おいでになる。……このかたは、聖霊と火によっておまえたちにバプテスマをお授けになるであろう。』<sup>5</sup>

ヨルダン川は、ヨハネからバプテスマを受けるためにイエスがガリラヤから下って来られたことで、歴史に残る出会いの場所となりました。最初、ヨハネは主に嘆願しました。「わたしこそあなたからバプテスマを受けるはずなのに、あなたがわたしのところにおいでになるのですか。』<sup>6</sup> それに対して主はこうお答えになりました。『すべての正しいことを成就するのは、われわれにふさわしいことである。』……イエスはバプテスマを受けるとすぐ、水から上がられた。すると、見よ、天が開け、神の御霊がはどのように自分の上を下ってくるのを、ごらんになった。また天から声があった、『これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である。』<sup>7</sup>

ヨハネは大胆に宣言し、次のように教えました。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。』<sup>8</sup>

ヨハネについて、主は次のように明言されました。「女の産んだ者の中で、バプテスマのヨハネより大きい人物は起らなかった。』<sup>9</sup>

長い歴史を通じて数多く生まれたほかの開拓者と同様、ヨハネも殉教者として亡くなりました。

### 救い主の使徒たち

霊的な面でも行動の面でも開拓者であった数多くの人々が、イエスによって召され、主の使徒となりました。これらの使徒たち一人一人について、多くを語る事ができるでしょう。

イエスから最初に召された弟子の一人にペテロがいます。

漁師であったペテロは、主の神聖な呼びかけにこたえ、網をわきに置いて、救い主の声に従いました。「わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう。』<sup>10</sup> わたしはペテロのことを考えるとき、主について「あなたこそ、生ける神の子キリストです」<sup>11</sup>と言ったペテロの証あかしにいつとも感嘆の念を覚えます。

愛弟子まなとしヨハネは、キリストが十字架におかりになったとき、その場にいたと記録されている唯一の使徒です。残酷な十字架につけられたまま、イエスはヨハネにすばらしい責任をお伝えになりました。御自分の母親であるマリヤについて、「ごらんなさい。これはあなたの母です」<sup>12</sup>と言ひ、さらにマリヤに「ごらんなさい。これはあなたの子です」<sup>13</sup>と言われたのです。

使徒たちは人に先立って行き、ほかの人々に従うべき道を示しました。使徒たちもやはり開拓者です。

しかしながら、歴史を見るかぎり、大部分の人はキリストのもとに来ることもなく、キリストのお教えになった道に従うこともありませんでした。主は十字架につけられ、大部分の使徒たちは殺され、真理は拒まれたのです。真理の光は明るい輝きを失い、漆黒の夜の長い影が大地を覆いました。

これに先立つこと何世代も前に、イザヤは次のように預言していました。「暗きは地をおおい、やみはもろもろの民をおおう。』<sup>14</sup> また、アモスは地が飢饉ききんに見舞われることを、こう預言していました。「それはパンのききんではない、水にかわくのもない、主の言葉を聞くことのききんである。』<sup>15</sup> 決して暗黒時代の歴史に終止符が打たれることはないように思えました。天の使者が姿を現すことはないのでしょうか。

### 光を探して

やがて時が来て、熱意にあふれた正直な人々が、自らの命を危険にさらしながらも、真実の道を見つけ出すための判断基準を確立しようと努めました。宗教改革の幕開けです。しか



ヨハネは主に  
嘆願しました。

「わたしこそあなたから  
バプテスマを  
受けるはずなのに、  
あなたがわたしのところに  
おいでになるのですか。』  
それに対して主は  
こうお答えになりました。  
「すべての正しいことを  
成就するのは、  
われわれに  
ふさわしいことである。』

し、前途は多難でした。迫害も激しく、個人の犠牲も甚だしく、代償も計り知れないものだったのです。これらの宗教改革者たちも開拓者でした。失われた判断基準を求めて道なき道に必死に分け行った宗教改革者たちは、その判断基準があれば、人類をイエスの教えられた真理へ連れ戻すことができると考えたのです。

ウィクリフ、ルター、フス、ツ빙グリ、ノックス、カルビン、そして、ティンダルといった人々も皆、宗教改革の時代の開拓者でした。ティンダルが自分を批判する人々に向かって宣言した言葉には、大きな意味があります。「すきを引いて畑を耕している農家の子供でさえ、あなたがたよりもはるかに聖書に精通させてみせよう。」<sup>16</sup>

それが偉大な宗教改革者たちの教えであり、また人生でした。彼らの行為は雄々しく、貢献も多大で、犠牲も並々ならぬものがありました。しかし、宗教改革者た

ちがイエス・キリストの福音を回復することはありませんでした。

宗教改革者たちについて、人はこう尋ねるかもしれません。「彼らの犠牲は無駄だったのだろうか。彼らの闘いは意味のないものだったのだろうか。」わたしは熟慮したうえで、「そうではない」と答えます。彼らの働きのおかげで、人々は聖書を手にすることができるようになりました。一人一人が、自分で容易に道を見いだせるようになりました。しかし、あらゆる人が聖書を読み、理解することができたなら、どんなにすばらしかったことでしょうか。ただ、一部の人が聖書を読むことができ、ほかの人たちはそれを聞くというのが現状でした。そして皆が祈りを通して神と交わっていました。

**漁** 師であった  
ペテロは、  
主の神聖な  
呼びかけにこたえ、  
網をわきに置いて、  
救い主の声に  
従いました。  
「わたしに  
ついてきなさい。  
あなたがたを、  
人間をとる  
漁師にしてあげよう。」



**ヤ**イロは  
主のもとに来て、  
こう言いました。

「わたしの幼い娘が  
死にかかっています。  
どうぞ、  
その子がおいて  
助かりますように、  
おいでになって、  
手をおいてやって  
ください。」

長く待ち望んだ回復の日が、現実<sup>リアル</sup>に到来しました。世界史上であの劇的な出来事にどのような意味があるかを考えるに当たって、まず、一人の農家の少年の証<sup>あかし</sup>を読み返してみましよう。この少年こそ、その出来事の証人であり、後に預言者となったジョセフ・スミスです。

### 夜明けの到来

自分自身の経験をジョセフは次のように記録しています。「ある日のこと、わたしは、ヤコブの手紙第一章五節を読んでいた。『あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせず<sup>あがた</sup>に惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。』」<sup>17</sup>

「とうとうわたしは、暗闇<sup>くらやみ</sup>と混乱の中にとどまるか、それともヤコブが指示しているとおりに行くか、すなわち神に願い求めるか、どちらかにしなければならないという結論を出すに至った。……

……わたしはこれを実行するために人目を避けて森に入って行った。それは千八百二十年の早春、美しい晴れた日の朝のことであった。……

わたしは……ひざまずいて、心の願いを神に告げ始めた。……

……わたしは自分の真上に、太陽の輝きにも勝って輝いている光の柱を見た。そして、その光の柱は次第に降りて来て、光はついにわたしに降り注いだ。……

……そして、その光がわたしの上にとどまったとき、わたしは筆紙に尽くし難い輝きと栄光を持つ二人の御方がわたしの上の空中に立っておられるのを見た。すると、そのうちの御一方がわたしに語りかけ、わたしの名を呼び、別の御方を指して、『これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい』と言われた。<sup>18</sup>

御父と御子イエス・キリストが、ジョセフ・スミスの前に御姿<sup>みすがた</sup>を現されたので





す。こうして、時満ちる神権時代の夜明けが到来しました。幾世代も続いた霊的な夜の闇が払われたのです。

ジョセフ・スミスの生涯と業績については、これまで無数の書物に著されてきました。しかし、恐らく2、3の中心的な出来事を紹介すれば十分でしょう。ジョセフ・スミスは天使モロナイの訪れを受けました。また、主の指示のままに貴重な版からモルモン書を翻訳し、全世界の人々に対するキリストの新しい証としました。神の手に使われる者となり、末日聖徒イエス・キリスト教会の設立に関する数々の力強い啓示を受けました。またジョセフは、御業を進めていたとき、バプテスマのヨハネやモーセ、エリヤ、ペテロ、ヤコブ、ヨハネの訪れを受けました。万物の回復を成し遂げるためです。さらに、迫害に耐え、深い苦しみを味わいました。彼に従った者たちも同様でした。また、神を信頼し、預言者としての召しに忠実でした。全世界に向けて驚くべき伝道活動を開始し、それにより今なお、人類に光と真理がもたらされています。最終的には、ジョセフ・スミスは、兄のハイラムとともに、殉教者として世を去りました。

ジョセフ・スミスもまさに開拓者でした。

### 世界を変えた御方

聖文の歴史を最初から最後まで読み通すと、究極の開拓者、すなわち、イエス・キリストについて学ぶことができます。イエスの降誕は古代の預言者たちによって預言されていました。この世の生涯を始められることは、一人の天使によって告知されました。イエスの生涯と務めは世界を変えてきました。

ベツレヘムにみどりごが降誕すると同時に、大いなる賜物たまものがもたらされました。武器よりもはるかに力ある権能が、また、カイザルの硬貨よりもはるかに永続する宝がもたらされたのです。この幼子おきなごは、王の王、主の主、約束のメシヤとなる御方、すなわちイエス・キリストであり、神の御子でした。馬屋に生まれ、かいばおけに寝かされたこの幼子は、肉体を持つ人間としてこの地上で生活するために天から降臨し、神の王国を設立されたのでした。この地上で奉仕の業を進める間に、人により高度な律法をお授けになりました。その栄光に満ちた福音は、世界の人々の考え方に新しい命を吹き込みました。イエスは、病気の人を祝福し、歩けない人を歩けるようにし、目の見えない人を見えるようにし、耳の聞こえない人を聞こえるようにされました。また、死者をよみがえらせることすらなされたのです。

使徒行伝の中の一文が、主の務めを雄弁に物語っています。「このイエスは、神が共におられるので、よい働きを……されました。」<sup>19</sup>

イエスはわたしたちに祈ることを教えられました。「天にいますわれらの父よ、御名があがめられますように。御国がきますように。みこころが天に行われるとおり、地にも行われますように。」<sup>20</sup>

また、ゲツセマネとして知られている園の中で、苦しみのあまり毛穴から血を流したイエスは、祈りの中でこう訴えられました。「父よ、みこころならば、どうぞ、この杯さかずきをわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください。」<sup>21</sup>

また、仕えることも教えられました。「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。」<sup>22</sup>

また、わたしたちに赦すことも教えられました。「主なるわたしは、わたしが赦そうと思う者を赦す。しかし、あなたがたには、すべての人を赦すことが求められる。」<sup>23</sup>

また、わたしたちに愛することを教えられました。「『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。』

これがいちばん大切な、第一のいましめである。

第二もこれと同様である、『自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ。』<sup>24</sup>

真の開拓者であった主は、「わたしに従ってきなさい」<sup>25</sup>と言い、人々を招き寄せられたのです。

ここで目をカペナウムに向けてみましょう。そこで、会堂司つかさの一人であったヤイロという者が主のもとに来て、こう言っています。「わたしの幼い娘が死にかかっています。どうぞ、その子がなおって助かりますように、おいでになって、手をおいてやってください。」<sup>26</sup>すると、会堂司の

家から知らせが来ました。「あなたの娘はなくなりました。」<sup>27</sup>

キリストはそれに対して、次のようにお答えになりました。「恐れることはない。ただ信じなさい。」<sup>28</sup> 主は、会堂司の家に着くと、泣き叫ぶ者たちの間を通り過ぎ、彼らに向かってこう言われました。「『なぜ泣き騒いでいるのか。子供は死んだのではない。眠っているだけである。』人々はイエスをあざ笑った。」<sup>29</sup> それは、娘がすでに死んでいることを知っていたからでした。「イエスはみんなの者を外に出し、……そして子供の手を取って、……『少女よ、さあ、起きなさい』[と言われた。]……すると、少女はすぐに起き上がって、歩き出した。……彼らはたちまち非常な驚きに打たれた。」<sup>30</sup>



**また、ゲツセマネとして知られている園の中で、苦しみのあまり毛穴から血を流したイエスは、祈りの中でこう訴えられました。「父よ、みこころならば、どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください。」**

## 復活の初穂

救い主が十字架につけられるまでの出来事を思い起こすとき、わたしはどうしても感情的になって、涙を禁じ得ません。わたしは、「十字架につけよ。……十字架につけよ」<sup>31</sup>と叫ぶ群衆にこたえたピラトの言葉を読むとき、身のすくむ思いがします。ピラトは、「水を取り、群衆の前で手を洗って言った、『この人の血について、わたしには責任がない。おまえたちが自分で始末をするがよい。』」<sup>32</sup> イエスはあざけられ、顔につばきを吐きかけられ、頭にはいばらの冠をかぶせられました。また、イエスに飲ませようと、酔いぶどう酒が与えられました。こうして、彼らは主を十字架にかけたのです。

主の遺骸は、借りた墓の中に横たえられました。しかし、主の肉体をとどめておくことのできる墓などは存在しなかったのです。3日目の朝、マグダラのマリヤとヤコブの母マリヤとこの二人に同行して来た女たちに、喜びのメッセージがも

## ホームティーチャーへの提案

このメッセージをよく祈って研究した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて分かち合ってください。いくつかの例を以下に紹介します。

1. 家族に「開拓者」という言葉を定義してもらおう。この記事の中にある定義を読む。モンソン副管長が提示した例を使い、開拓者が霊的な意味でわたしたちの歩むべき道を備えてくれたことを示す。行くべき道に自分を導いてくれた人について、家族に話してもらおう。わたしたちが開拓者の精神を持ち、人々に行くべき道に導くために、何ができるか話し合う。あなたにとって大切な「開拓者」を一人挙げて、その人について話す。

2. この記事の中にある開拓者の絵や写真を見せる。順番に、一つの絵や写真を選んで、なぜその人が開拓者であるかを説明してもらおう。それから家族にこう尋ねる。「気高い開拓者たちの遺産に感謝するには、どうすればよいでしょうか。」救い主が「究極の開拓者」であられることについて証を述べる。

3. 家族とともに少し散歩する。途中数か所で立ち止まり、その度に、モンソン副管長の話の中に出てくる開拓者の例を紹介する。開拓者の定義を読み、家族の中のだれかに家に帰る道を導いてもらう。家族に、日々の生活の中で開拓者になろうと努めるよう勧める。

たらされました。女たちが墓に来ると、入り口の大きな石が転がされていて、墓はすでに空になっていたのです。二人の天使が、泣いている女たちにこう言いました。「あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にあずねっているのか。そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。」<sup>33</sup>

確かに、主はよみがえられました。主はマリヤに現れ、ケパ、すなわち、ペテロにも現れ、さらに、十二使徒の兄弟たちにも御姿を現されました。また、ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンにも御姿を現されました。彼らは次のように宣言しています。「小羊についてなされてきた多くの証の後、わたしたちが最後に小羊についてなす証はこれである。すなわち、『小羊は生きておられる。』わたしたちはまことに神の右に小羊を見たからである。」<sup>34</sup>

わたしたちの仲保者であり、贖い主であり、長兄であり、御父への弁護者である主は、わたしたちの罪のために、そして全人類の罪のために亡くなりました。イエス・キリストの贖いは、予任されてはいたものの、神の独り子の自らの意志で行われた行為です。イエスは、わたしたちすべての者のために、贖いの代価として、御自分の命を差し出されたのでした。

主の伝道、人々の間で行われた奉仕の業、真理の教え、憐れみに満ちた行い、わたしたちに対する不変の愛について考えるとき、わたしたちは感謝の念で満たされ、心が熱くなります。世の救い主であるイエス・キリストは、神の御子であり、昔も今も、究極の開拓者です。イエスが人々に先立って行き、すべての人に従うべき道を示されたからです。わたしたちがこれからも主に従って歩むことができますように。■

## 注

1. ウィルフォード・ウッドラフ — *Martyr, Father of the English Bible* (2004年), 47で引用
2. *Oxford English Dictionary* (1971年), “pioneer”の項2182
3. ルツ1:16-17
4. ヨハネ3:28
5. ルカ3:16
6. マタイ3:14
7. マタイ3:15-17
8. ヨハネ1:29
9. マタイ11:11
10. マタイ4:19
11. マタイ16:16
12. ヨハネ19:27
13. ヨハネ19:26
14. イザヤ60:2
15. アモス8:11
16. S・マイケル・ウィルコックス, *Fire in the Bones: William Tyndale*
17. ジョセフ・スミス—歴史1:11
18. ジョセフ・スミス—歴史1:13-17
19. 使徒10:38
20. マタイ6:9-10
21. ルカ22:42
22. マタイ25:40
23. 教義と聖約64:10
24. マタイ22:37-39
25. ルカ18:22
26. マルコ5:23
27. マルコ5:35
28. マルコ5:36
29. マルコ5:39-40
30. マルコ5:40-42
31. ルカ23:21
32. マタイ27:24
33. ルカ24:5-6
34. 教義と聖約76:22-23

# 「わたしも ポール・コーリカーです」

七十人

ポール・E・コーリカー

**数**年前、家族歴史をもっと調べたいと思い、妻とともにスイスを訪問しました。チューリッヒ湖から30分ほどのところにあるグラールスの町に着いてみると、どういわけかホテルの予約が入っていませんでした。従業員は申し訳なさそうに應對し、ほかにどこか滞在できる場所がないか探してくれました。何軒かに電話をしていましたが見つからないようでした。やがて彼はこう言いました。「そうそう、少しお待ちください。あまり遠くない所に小さなホテルがあります。そのオーナーは合衆国へ出かけていますが、もう戻ったか確認してみます。」電話をかけると、オーナーはちょうどその日に帰って来たところで、部屋はすべて空いていることが分かりました。

その小さなホテルは、アルプスのふもとの美しい湖畔にありました。ディナーを楽しく頂いているとき、ホテルのオーナーがこう言いました。「わたしはポール・コーリカーという人を知っていますよ。グラールスに住んでいる人です。」それからふと気づくと、先ほど知り合ったばかり

のオーナーが、電話でグラールスにいるポール・コーリカー氏と話していました。相手の男性は、わたしがソルトレーク・シティから来たのかどうか尋ねました。わたしがそうですよと答えると、彼は「その人なら以前に会ったことがある」と言いました。



**御霊の促しに従って  
行動すれば、  
主が先祖を探すのを  
助けてくださいます。**

そのとき、わたしの記憶がよみがえってきました。25年以上も前のことです。わたしがソルトレークの教会本部ビルで働いていると、電話が鳴りました。電話の主は強いドイツなまりの英語で、こう告げました。「わたしの名前は、ポール・コーリカーです。電話帳を見ていて、ポール・コーリカーという同じ名前を見つけたのでお会いしたくなりました。」わたしは父と祖父を伴い、彼に会いに行き、楽しいひとときを過ごしました。彼は、先祖の名前を何人か挙げましたが、わたしたちの家族の系譜に結びつけることはできませんでした。その後、わたしたちがスイスを訪れるまで、互いに会う機会はありませんでした。

翌日朝早く彼の事務所を訪ねました。ポール・コーリカー氏はグラールスに住んでいるだけでなく、何とグラールスの州立文書保管所の所長であることも分かりました。家族のルーツを探しに来たことを話すと、彼は「お助けできると思いますよ」と言いました。彼はわたしたちを保管庫に案内し、家系ごとに整理された書物を見せてくれました。「これはどれもコピーできません。手書きで写さねばなりません」とのことでした。そこでわたしたちは7時間かけて大急ぎで書き写しました。

わたしたちはスイスから何百という先祖の名前を携えて帰って来ることができました。その後神殿で彼らの儀式を行いました。グラールスの文書保管所には、まだまだ皆さんの名前が待っています。わたしたち家族は、それらの名前がわたしたちを待っているという強い霊的な促しを感じています。わたしは、御霊の促しに従って行動すれば主が先祖を探すのを助けてくださる、と確信しています。■



# 人生の目的



## 末日聖徒イエス・キリスト教会特有の教義を 検証するシリーズ

この世の生涯の目的、すなわち「なぜここにいるのか」という疑問を理解するには、まず、わたしたちが何者であって、どこから来たのか、そしてどのような永遠の行く末が備えられているのかを理解しなければなりません。預言者ジョセフ・スミスによって回復され、聖典に収められたこの真理は、わたしたちが文字どおり神の霊の子供であって、前世で神とともに住んでいたこと、また神の属性を受け継いでおり、神のようになる可能性があることを教えてくれます。神のようになることは、前世におけるわたしたちの最大の望みでした。そしてその願いを実現するには、神の

もとを離れて肉体を得、信仰によって歩むことを学び、イエス・キリストの贖いあがなを通して「従順で、柔和で、謙遜けんそんで、忍耐強く、愛にあふれた者」となる必要があることをわたしたちは知っていました(モーサヤ3:19)。

### 肉 体

リーハイは「アダムが墮落したのは人が存在するためであり、人が存在するのは喜びを得るためである」と宣言しました(2ニーファイ2:25)。しかし、復活して栄光を受けた肉体がなければ、わたしたちは御父のように永続する喜びを手に入れることができません。主は次のように教えておられます。「元素は永遠であり、分離しないように結合した霊と元素は、満ちみちる喜びを受ける。これらが分離するとき、人は満ちみちる喜びを受けることはできない。」(教義と聖約93:33-34)



地上に生まれて死すべき肉体を手に入れた人は皆、復活しますが、神のもとで受ける永遠の命の栄光と喜びは、主イエス・キリストへの「信仰によって勝利を得[た]」人にもみ約束されています(教義と聖約76:53)。ジョセフ・スミスはこう教えました。「わたしたちが地上に来たのは、肉体を得て、それを清い状態で日の栄えの王国におられる神の前に差し出すためです。」<sup>1</sup>

十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老は次のように説明しています。「わたしたちは、現世の生涯の目的は、肉体を得ることであると信じています。また、イエス・キリストの贖いと、福音の儀式と律法への従順を通して、昇栄あるいは永遠の命とも呼ばれる、復活し栄えを受けて日の栄えの状態に入るにふさわしい者となることであると信じています。」<sup>2</sup>

### 見えるものによらないで、信仰によって

前世で、わたしたちは神とともにいました。見えるものによって歩いていたのです。しかし、現世にあっては使徒パウロが言ったように、「わたしたちは、見えるものによらないで、信仰によって歩いて」います(2コリント5:7)。「信仰とは……まだ見ていない事実を確認することであり」(ヘブル11:1, 強調付加)、「もし信仰があれば、あなたがたはまだ見ていない真実のことを待ち望むのである」と聖文は教えています(アルマ32:21)。見えるものによって歩もうとすれば、信仰をはぐくみ、働かせる能力を妨げてしまうのです。

「信仰がなくては、神に喜ばれることはできない。」(ヘブル11:6) イエス・キリストを信じる信仰がなければ、わたしたちは救われません。神とともに住んでいたとき、わたしたちはある程度の信仰を身に付け、働かせていました。しかし、永遠の命を手に入れるのに必要な信仰をはぐくむには、神のもとを離れ、前世の記憶が閉ざされなければならなかったのです。

モロナイは、「信仰とは待ち望んでいながらまだ見ていないものである」という概念についてさらに深く解説し、わたしたちの信仰が試されるまで神は確かな知識をお与えにならないと述べています。「あなたがたは、自分が見ていないからということ<sup>あかし</sup>で疑ってはならない。信仰が試されてからでなければ、証は得られないからである。」(エテル12:6) こうして信仰の試しを受けることは、わたしたちが神のもとを離れて地上に来たもう一つの大きな目的なのです。

### 「彼らを試し」

高価な真珠には、アブラハムが示現によって見た前世の記述があります。イエス・キリストは、前世で「ともにいた者たちに」向かって言われました。「これらの材料を取って、これらの者が住む地を造ろう。そして、わたしたちはこれによって彼らを試し、何であろうと、主なる彼らの神が命じられるすべてのことを彼らがなすかどうか見よう。」(アブラハム3:24-25) このように、この世の生涯は「試しの状態」(アルマ12:24)となり、わたしたちがキリストの贖罪にあずかれることを示し、主のように聖くなるための時期となったのです。

この信仰の試しは、「主なる[わたしたちの]神が命じられるすべてのことを[わたしたちが]なすかどうか」見極めるためのものです。現世の試しに勝利するには、罪を悔い改め、救いに不可欠な儀式を受ける必要があります。そして神と聖約を交わしてそれを守り、最後まで義をもって堪え忍ばなければなりません。

しかし、主が気にかけておられるのは現世におけるわたしたちの行いだけではありません。わたしたちが現在どのような人物で、将来どのようなのかを深く心に掛けておられるのです。「主は心と進んで行く精神とを求め」られます(教義と聖約64:34)。さらに、主はわたしたち一人一人に「主なるキリストの贖罪により……聖徒となり、子供のように従順で、柔和で、謙遜で、忍耐強く、愛にあふれた者となり、主がその人に負わせるのがふさわしいとされるすべてのことに喜んで従う」者になるよう求めておられます(モーサヤ3:19)。主は、わたしたちが主のもとに来て「悪を行う性癖をもう二度と持つことなく、絶えず善を行う望みを持つように……わたしたちの心の中に大きな変化」を経験するよう望んでおられるのです(モーサヤ5:2)。

現世の真の試しは、わたしたちが救い主を心から受け入れ、主の贖いの血の効力を自分の生活に受けて、「最善を尽く[して]」戒めを守るかどうか(2ニーファイ25:23)を見ることです。こうしてついに、神の恵みによりキリストにあって完全になるのです(モロナイ10:32参照)。

### 注

1. *History of the Church*, 第6巻, 50
2. 「背教と回復」『聖徒の道』1995年7月号, 92-93参照

# パナマで 成長する 若い女性

この若い女性たちは、  
「成長するわたし」を通して  
生活を改善する方法を  
学びました。

アダム・C・オルソン  
教会機関誌

**16** 71年、オールドパナマの町は海賊によって焼け野原になりました。今日、メリッサ・ベサンコートは崩れかけた外壁の向こうに、パナマシティー新市街にそびえる高層ビルや広大な都市風景を指し示すことができます。過去335年間にわたるパナマシティーの発展には目を見張るものがあります。

しかし、メリッサが過去6年間で遂げてきた進歩は靈感によるものです。「成長するわたし」のおかげで、メリッサ以外にも多くの若い女性たちが世界中で同じ変化を見せてくれています。

メリッサはこう語ります。「いつも自分のことを最悪だと思っていました。」17歳のメリッサは間もなく、パナマ・パナマシティーステーク、シンクエンテナリオワードで若い女性を卒業しようと

しています。「『成長するわたし』は、わたしが価値ある人間であることを教えてくれました。」

メリッサはこう言います。「だれであろうと、どこにしようと、『成長するわたし』を通して得られる経験は、より善い人間になれるように助けてくれます。『成長するわたし』は靈感によってわたしたちに与えられたものです。世の中は変わるし、誘惑や試練の内容も変わります。このプログラムは、若い女性が現代の問題に立ち向かって成長できるように与えられたものです。」

## 天を目指して成長する

オールドパナマの跡地には、今もなおラ・カテドラル(大聖堂)が建っています。石造りの建築物で、尖塔は現在も4階建ての建物と同じ高さでそびえています。この大聖堂は古い港町の中でも、とりわけ立派な建物の一つだったと思われます。オールドパナマ時代以後、パナマシティーの風景はすっかり変わりました。高層ビルがその名のとおり、ラ・カテドラルの周囲にそびえ立っています。

そのような発展は、パナマの教会の若い女性たちの生活にも見ることができます。高層ビルが空に向かってそびえているのと同じように、「成長するわたし」は自分が何者であるか

右ページ——

過去335年間、  
石造りから鉄筋へと  
変貌を遂げてきた  
パナマシティーの  
発展には目を見張る  
ものがある。  
けれども、  
ベアトリス・マルティネス、  
マイカ・モレノ、  
アンドレア・ナバス、  
メリッサ・ベサンコート  
(左から右)のような  
若い女性が  
「成長するわたし」を  
通して遂げてきた進歩は  
さらに感慨深い。





**パナマシティは、元の姿(挿入写真)を見下ろすように上に上に築かれていった。同じように、マイカ・モレノ(右ページ上)と妹ミネルバ(同下)のような若い女性も『成長するわたし』を活用して、成長している。**

を理解し、若い女性の徳質に従って生活することにより、天を目指して成長する助けとなっています。

シンクエンテナリオワードのアンドレア・ナバス(16歳)はこのように語っています。「『成長するわたし』は、教会について教えてくれるだけではありません。自分が何者であるか、つまりわたしたちが神の娘であることに気づかせてくれました。」

神の娘であることを確信しているこの若い女性たちは、恐れることなく新しいことに挑戦します。チャレンジして失敗しても人がどう思うかなど心配してはいないからです。また、自分たちが神の目に価値ある存在であると知ることにより、人に手を差し伸べることができるようになります。

神の娘であることを知っていたおかげで、アンドレアは自分のワードで奉仕している姉妹宣教師に感謝の手紙を出すことができました。この宣教師はアンドレアにピアノの弾き方を教えてくれたのです。同じようにこの知識のおかげで、メリッサは地元の老人施設で時間を過ごし、老人たちと話したり、世話をしたりするよう動機づけられました。また、マルカーサワードのマイ

カ・モレノは、同級

生に救いの計画について教える勇気を得ました。

マイカは次のように語ります。「わたしたちには無限の価値があります。人の霊は神の目に尊いのです。『成長するわたし』は、自分や周りの人に対する見方を変えてくれました。わたしたちは時折、人のことをあまり良くない方に裁いてしまうことがあります。神は一人一人を愛しておられるのです。」

### 新しい基

オールドパナマが焼け落ちた後、パナマの人々は数キロ離れた所に守りやすい土地を見つけ、町を一から建て直し始めました。一筋縄では行かなかったでしょうが、その成果はオールドパナマの上空にそびえています。

マイカ・モレノと妹ミネルバの個人の進歩も、同じような成果を遂げてきました。この姉妹が教会に加わったとき、マイカはビーハイブの年齢で、ミネルバは数か月後に若い女性に入ることになっていました。彼女たちは初等協会で基礎を築くことなしに福音の基をほとんど一から築き始めたのです。数年たった今、新しい改宗者だった二人にとって「成長するわたし」



がどれだけ役に立ったかを振り返ります。

マイカは次のように言います。「わたしは初等協会に出席する機会はありませんでした。でも『成長するわたし』を通して福音の教義を理解できました。キリストの贖<sup>あがな</sup>いや、それまで理解できなかった多くのことに対する証<sup>あかし</sup>を強めることができました。」

ミネルバはこう言っています。「福音やジョセフ・スミスについて、さらにたくさん<sup>あかし</sup>のことを学びました。一部の人が教会について語る間違いと真理の区別がつくようになりました。」

母親のジャスタも、二人の成長ぶりを認めています。「二人が大きく変わるのを見てきました。日常生活や振る舞い、友人や学校に関しても、100パーセント、しかも良い方向に完全に変わりました。」

マイカは次のように言います。「ほんとうにたくさん<sup>あかし</sup>のことを学びました。以前とは別人になりました。より善い人になったのです。」

### 「成長するわたし」

教会員として育ってきたマイカの友人たちも、このプログラムのおかげで生活が変わったと確信しています。

メリッサは次のように言います。「教会の中で育っても、両



親のような証がないことがあります。でも、特に『成長するわたし』と信仰の徳質を通して、自分の証をはぐくみ、強めることができました。」

パナマの若い女性たちは皆口をそろえて、「成長するわたし」が証を強め、生活をより良い方向に変えてくれたと言います。そして、このプログラムに取り組むなら、どんな若い女性も同じような成果を得られると確信しています。

ベラビスタワードのベアトリス・マルティネスはこう語ります。「その人にとって意義あるものでなければ、生活を変えることはできません。」「成長するわたし」はどんな人にも当てはめることのできる、靈感によって作られたプログラムであるとベアトリスは確信しています。「このプログラムはすべての人のためにあります。」

マイカはこう言います。「主はわたしたちがより善い人になり、ますます輝くことを望んでおられます。わたしたちが才能を伸ばし、丘の上の明かりになることを望まれています。

このプログラムはそのためにあるのです。」

大管長会は次のように語りました。

「あなたは天のお父様の愛する娘で〔す〕。……愛にあふれた天のお父様は、あなたがその神聖な使命を果たすために役立つような才能と能力をあなたに祝福として与えてくださいました。個人的な祈り、聖文の学習、戒めに対する従順<sup>なまもの</sup>、そしてほかの人々への奉仕を通して、あなたはこれらの賜物を伸ばすことができます。……

『成長するわたし』に参加するあなたは、キリストのもとに来て、『いつでも、どのようなことについても、どのような所においても、……神の証人となる』(モーサヤ18:9)よう努力している大勢のほかの若い女性の群れに加わることとなります。』『若い女性——成長するわたし』1)

パナマシティが発展を続けて、都市風景に新しい高層ビルが加わっていくように、「成長するわたし」を実践する若い女性たちも、才能を伸ばして模範を示し、キリストのもとに近づきながら、人々がともに成長できるように助けるでしょう。■

EL PROGRESO  
PERSONAL  
PARA LAS  
MUJERES JOVENES



# 神への務め

## 靈的なとりでを築く



16世紀の  
要塞跡にたたずむ  
二人の若い男性。  
彼らは、「神への務め」  
プログラムで  
有意義な目標を立てて  
達成し、  
彼らの言葉を借りれば、  
自分のために  
信仰の要塞を  
築いている。

右——  
マイケル・ディアスと  
兄アイザック。  
右ページ——  
マイケル、アイザック、  
友人の  
ナルシッソ・ガレーと  
アルド・カルデナス。

アダム・C・オルソン  
教会機関誌

**大**型の大砲の長い砲身を見ていたマイケル・ディアスは、視線を移して、パナマ・ポルトベロの荒波を眺めます。もしこの地にあった要塞と、要塞に守られた黄金をねらって襲撃するとしたら、攻撃する船は12門以上の大砲が放つ砲弾に耐えなければならず、船員たちはマイケルが今立っている場所を含めた、海岸の二つのとりでを守る兵士の隊列を突破しなければなりません。このように、昔の戦争は激しく、恐ろしいものでした。



マイケルにとって幸運なことに、そのような戦いは250年以上起きていません。

そのような戦いのあった時代以降、多くのことが変わりました。しかし、15歳のマイケルは廃墟となった厚い石造りの壁に沿って歩きながら、携帯電話やインターネット、月面を歩く人について考えているわけではありません。マイケルとパナマ・コロンステークの友人たちは「神への務め」プログラムのおかげで自分の内に現れてきた変化について話しているのです。

マイケルはこのように語ります。「たくさんのことを学びました。」マイケルとともにいる友人

たちも彼の言葉に同意してうなずいています。「ぼくはもっと自分に自信を持てるようになりました。靈的な面であり人に頼らなくてもよくなりました。そして、教会について人に話す勇氣が得られました。」

### 頑強なとりでを築く

頑強に建てられた要塞は100年以上もの間、ポルトベロを見守り、一部は今日もまだ残っています。

これらの若い男性によれば、「神への務め」プログラムのすごいところは、目標を立て、その達成に向かわせてくれることです。人生で直面するいかなる試練にも耐えられるような頑強な靈

的とりでを築くうえで、彼らの目標は役立っています。

大管長会はこのように述べています。「あなたは大きなチャレンジ……があふれる時代に生きています。……信仰と証を築くことにより、福音を学び、分かち合いながら福音に従って生活することにより、あなた自身を強めることができます。」(『アロン神権——神への務めを果たす』4)

プエルトピロンワードのアルド・カルデナスは父親の助けを得て家庭の夕べを計画するという、最近達成した目標を振り返り、このように述



べています。「父は『神権は家族にとってどれだけ大切か』というテーマをくれました。神権についてたくさんのことを学びました。神権はほくたちにとっても周りの人たちにとっても、大きな祝福です。そして、その祝福はほくたちの働きを通してもたらされるんです。」

アルドはプログラムの仕組みに感謝しています。「目標を達成しなければならないことで、責任感が強くなりました。」

バリアダクナワードのナルシツ・ガレー(17歳)は毎日モルモン書を読むという目標を立てることにしました。「両親はほかの聖典も読むように提案してくれました。もうすぐ新約聖書を読み終わります。読み始めたころはつまらなく感じましたが、イエスがほくたちのために苦しまれたことが分かってきました。それに、人は主のみもとに戻れるのだと確信しました。」

マイケルの兄のアイザックは、「神への務め」プログラムで立てた目標を達成したことで、霊的に強められたと言います。アイザックが教師のとき、定員会でただ一人活発に集っていました。「神への務め」は彼自身の助けとなっただけでなく、このプログラムのおかげで、定員会に定期的に出席していなかった3人の会員が幾つかの活動に出席する手助けができました。さらに、そのうちの一人は日曜日の集会にも出席するようになりました。

アイザックはこのように語ります。「彼らを訪問して、教会に来るよう励ます努力をしました。それがほくにとって、神への務めだったからです。」

### もう恐れない

マイケルは長年使われていない大砲の上に腰かけてみて、敵の猛攻から要塞を守る様子がありありと想像できました。しかし海原のかなたを見詰めながら、異なる種類の敵の攻撃から身を守ることに話してくれました。その敵は襲撃に大砲や火薬を使いません。

ポルトベロの夕暮れの景色を見ながら、このように話してくれました。「時々、学校の友達に『モルモン教会』の会員であることでほくをからかいます。」しかし、マイケルは臆<sup>おく</sup>することなくいつもこう言うのです。「ほくが集っているのは、モルモン教会じゃなく、末日聖徒イエス・キリスト教会だよ。」■



# た ま も の 聖霊の賜物

## 全会員が知っておくべきこと



十二使徒定員会会長代理  
ボイド・K・パッカー

バプテスマは、水によるバプテスマと、火すなわち聖霊によるバプテスマという、二つの部分から成っているのです。この二つを切り離せばバプテスマの半分でしかなくなるのです。

この話の目的は、教会の諸事が現行のように行われる理由について、教義と聖文から教えることです。教会員一人一人が完全に改心し、決して教会を離れることがないようにするために、教会の諸事をよりよく行う方法について、指導と提案をします。

ジョセフ・スミスは言っています。「もしも罪の赦しと聖霊を受けることを考えずに人にバプテスマを施すのであれば、砂の袋にバプテスマを施した方がよいでしょう。水によるバプテスマはバプテスマの半分にすぎません。もう半分、すなわち聖霊のバプテスマがなければ、何の役にも立たないのです。」(*History of the Church*, 第5巻, 499)

聖霊の賜物について教えないまま人をバプテスマに備えるのは、聖餐会せいさんでパンだけ祝福して配るようなものです。半分しか受けられないことになるのです。

バプテスマの儀式と、確認をして聖霊の賜物を受ける儀式の間にある、切っても切れない関係について話します。

### 確認をして聖霊の賜物を受ける

確認の儀式は二つの部分から成っています。まず教会の会員として確認し、その後に聖霊の賜物を受けるのです。この儀式を執行する神権者は「『聖霊を受けなさい』と言って聖霊

の賜物を受け」ます(『家族ガイドブック』[パンフレット]20)。

わたしの知るかぎり、聖文には、聖霊が目に見える形で現れた例は二つしか記載されていません。一つは主がバプテスマをお受けになったときのことです。

「イエスはバプテスマを受けるとすぐ、水から上がられた。すると、見よ、天が開け、神の御霊みたまがはどのように自分の上へ下ってくるのを、ごらんになった。」(マタイ3:16。1ニーファイ11:27;2ニーファイ31:8;教義と聖約93:15も参照)

もう一つの例は五旬節ごじゅんせつの日に起きました。疑う余地もなく使徒たちは聖任を受けていましたが、主は今や使徒たちを残したまま地上を離れておられ、使徒たちはどうしたらよいか分かりませんでした。主からエルサレムにとどまっているよう命じられたことを覚えていて、そのとおりにしていたのです。そのようなときに、その出来事が起きました。弟子たちが家の中にいると「突然、激しい風が吹いてきたような音が天から起ってきて、一同がすわっていた家いっばいに響きわたった。

また、舌のようなものが、炎のように分れて現れ、ひとりびとりの上にとどまった。

すると、一同は聖霊に満たされた。」(使徒2:2-4) こうして、彼らは使徒として権能を授けられ、備えられたのです。

このようにして彼らは、主によって召され任命された務めに従事できるようになりました。

教義と聖約にも同じようなパターンが記されています。主は言われました。

「あなたは悔い改めのために水によってバプテスマを施したが、人々は聖霊を受けなかった。

しかし今、わたしはあなたに一つの戒めを与える。あなたは水によってバプテスマを施さなければならない。そうすれば、昔の使徒たちが行ったように、<sup>あんにん</sup>按手によって人々は聖霊を受けるであろう。」(教義と聖約35:5-6)

パウロがエペソに行くと、12人の弟子たちがすでにバプテスマを受けていましたが、聖霊を受けた人は一人もいませんでした。彼らはパウロに向かって言いました。「聖霊なるものがあることさえ、聞いたことがありません。」(使徒19:2)

パウロが次に取った行動は非常に重要です。パウロは彼らに再度バプテスマを受けさせました。それから、按手によって聖霊の賜物を授けたのです(使徒19:2-7参照)。

信仰箇条の第4条を思い起こしてください。「わたしたちは、福音の第一の原則と儀式とは、第一に主イエス・キリストを信じる信仰、第二に悔い改め、第三に罪の赦しのために水に沈めるバプテスマ、第四に聖霊の賜物を授けるための按手であることを信じる。」

水によるバプテスマに備えさせるために親が子に教えたり、宣教師が求道者に教えたりするとき、聖霊の賜物、すなわち火によるバプテスマについても考慮に入れなければなりません。それを一まとめに考えてください。水によるバプテスマに

続いて、火によるバプテスマを受けるのです。

宣教師は、「伝道はどうですか」とか「だれかに福音を教えていますか」と尋ねられることがあるかもしれません。

そんなときは、こう答えるべきです。「ええ、聖霊を受けるためにバプテスマと確認に備えている家族がいます。」

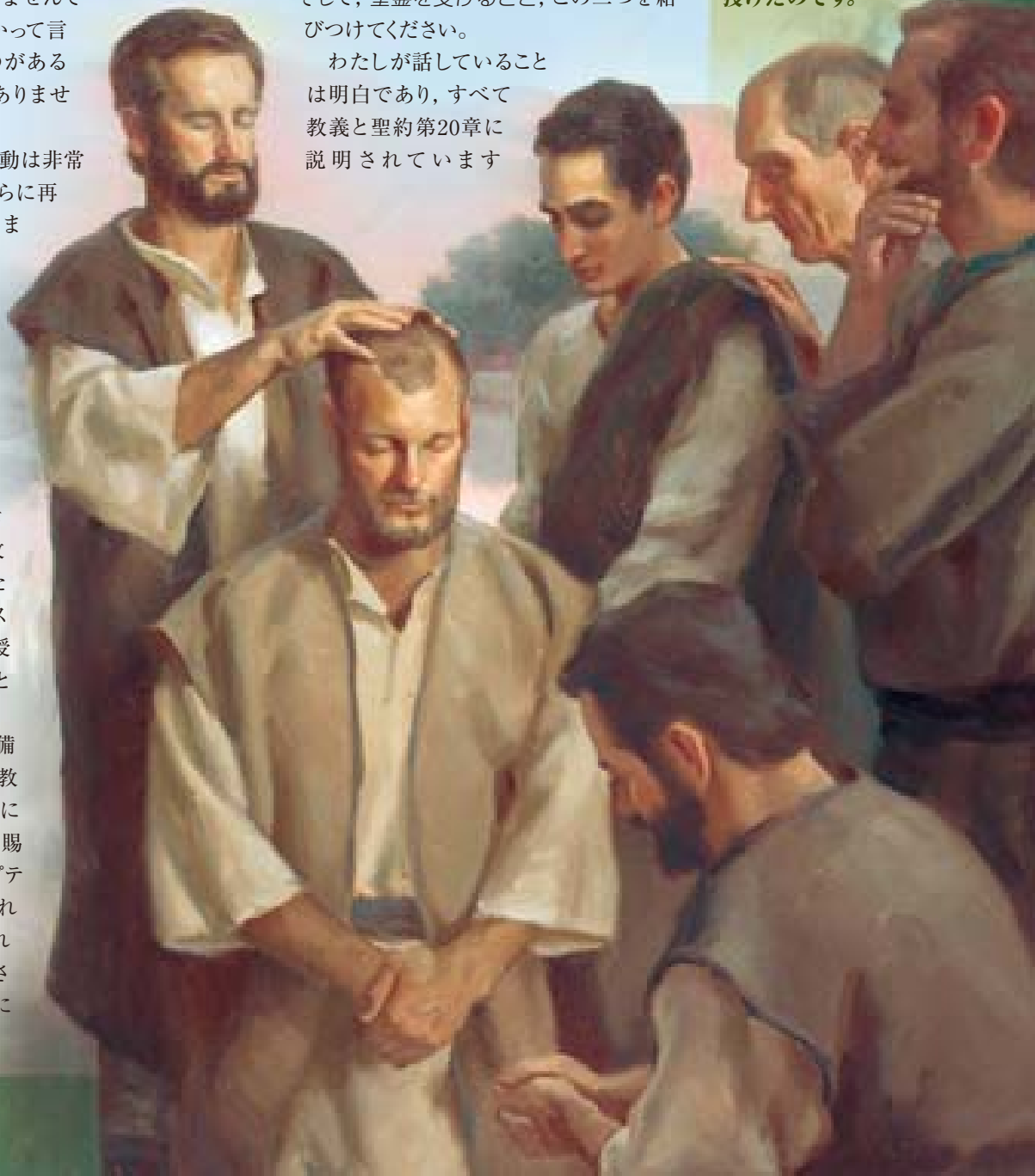
父親や母親の場合、子供にこう言って教えるのがよいでしょう。「8歳になるまでに、バプテスマと聖霊を受ける準備をしなくちゃね。」

繰り返し言います。バプテスマを受けること、そして、聖霊を受けること、この二つを結びつけてください。

わたしが話していることは明白であり、すべて教義と聖約第20章に説明されています

エペソで、12人の弟子たちがすでに

バプテスマを受けていましたが、聖霊を受けた人は一人もいないことを知ったパウロは、彼らに再度バプテスマを受けさせました。それから、<sup>たまもの</sup>聖霊の賜物を授けたのです。



(41-43, 45, 68節参照)。ほかにもこのメッセージが確認できる聖句があります(使徒8:12, 14-17; 教義と聖約33:11, 15; 36:2; 39:23; 49:13-14; 55:1; 68:25; 76:51-52; 信仰簡条1:4参照)。

ジョセフ・スミスは述べています。「水に沈めるバプテスマは、火すなわち聖霊によるバプテスマを伴わなければ、意味のないものである。この二つは欠くことのできないものであり、互いに切り離すことはできないものである。」(*History of the Church*, 第6巻, 316)

### 火によるバプテスマ

それでは、火と聖霊によるバプテスマについて話しましょう。さらに天使についても少し話します。

「彼らが皆バプテスマを受けて、水から上がると、聖霊が彼らに降られた。そして、彼らは聖霊と火に満たされた。」(3ニーファイ19:13)

別の聖句の一部には、それが実現する条件として「あなたがたがキリストを信じて、わたしたちの救い主の模範に従って、救い主がわたしたちに命じられたとおりにまず水でバプテスマを受け、次に火と聖霊によってバプテスマを受けらば」と記されています(モルモン7:10)。

繰り返しになりますが、バプテスマは、水によるバプテスマと、火すなわち聖霊によるバプテスマという、二つの部分から成っているのです。この二つを切り離せば、預言者ジョセフ・スミスが言ったように、バプテスマの半分でしかなくなります。

### 聖霊が語りかけられるとき

聖霊はどのように語りかけられるのでしょうか。

ニーファイ第一書第17章には、レーマンとレムエルがニーファイにひどい仕打ちをしたと書かれています。それどころか、二人はニーファイの命まで取ろうとしていたのです。やがてニーファイはレーマンとレムエルにこう言います。「あなたがたは罪悪を行うのは早いけれども、主なる神を思い起こすのは遅い。あなたは一人の天使に会い、その天使はあなたがたに語りかけました。まことに、あなたがたはその声を時々聞いています。天使は静かな細い声で語りかけましたが、あなたがたは心が鈍っていたので、その言葉を感じることができませんでした。」(1ニーファイ17:45, 強調付加)

聖霊の語りかけが声として聞こえることは、めったにあり

ません。ニーファイが言うように、心に与えられる場合がほとんどです。

もう一つ例を挙げましょう。主はジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに次の原則を教えられました。「あなたがたは心の中でそれをよく思い計り[勉強する, 研究する], その後、それが正しいかどうかわたしに尋ねなければならぬ。もしそれが正しいければ、わたしはあなたの胸を内から燃やそう[火, 燃える]。それゆえ、あなたはそれが正しいと感じるであろう。」(教義と聖約9:8, 強調付加)この原則はすべての人に当てはまります。



**「水に沈める  
バプテスマは、  
火すなわち聖霊による  
バプテスマを  
伴わなければ、  
意味のないものである。  
この二つは欠くこと  
できないものであり、  
互いに切り離すことは  
できないものである。」  
——ジョセフ・スミス**

### 天使の言葉で語り

「したがって、わたしの愛する同胞よ、もしあなたがたが十分に固い決意をもって御子に従い、神の前に決して偽善と欺きを行うことなく誠意をもって行動し、罪を悔い改め、バプテスマによって、まことに、あなたがたの主であり救い主である御方に従い、主の言葉のとおりに入水に入り、バプテスマを受けることによって、キリストの名を喜んで受けることを御父に証明するならば、見よ、そのとき、あなたがたは聖霊を受ける。すなわち、そのとき火と聖霊によるバプテスマを受ける。」その次が重要な原則です。「するとあなたがたは天使の言葉で語り、イスラエルの聖者に賛美の声を上げることができるのである。わたしはそれを知っている。」

しかし見よ、わたしの愛する同胞よ、御子の声が次のように聞こえてわたしに言われた。『あなたがたは罪を悔い改め、水によるバプテスマを受けることによってわたしの戒めを進んで守ることを御父に証明し、火と聖霊によるバプテスマ[すなわち確認]を受け[ると、あなたがたは]新しい言葉、すなわち天使の言葉で語れるようになる。』(2ニーファイ31:13-14, 強調付加)

ニーファイは、バプテスマと確認、聖霊の授与の後に何が起きるか、明瞭に説明しています。「したがって、わたしがあなたがたの主であり贖い主である御方の行われることを先見して、これまで語ってきたことを、あなたがたも行いなさい。これらのことがわたしに示されたのは、あなたがたが入らなければならぬ門を知ることができるようにするためである。あなたがたが入らなければならぬ門とは、悔い改めと、[象徴的に、悔い改めの証拠となる]水によるバプテスマである。そうすれば、火と聖霊によって罪の赦し[が受けられ

るように、清めていただくという約束]が与えられる。」(2ニーファイ31:17)

わたしたちは、罪の赦しのためのバプテスマという言い方をすることがあります。しかし、聖文を注意深く読むと、罪の赦しは火と聖霊によるバプテスマを通して得られることが分かります。

「さて見よ、わたしの愛する同胞よ、あなたがたはその道によって入ってからどのようにすればよいのか、多少心の中で深く考えていると思う。」バプテスマを受け、聖霊を授けられたばかりで、これからどうすればよいのだろうと考えている人に向かって、ニーファイは言っています。「しかし見よ、なぜこれらのことを心の中で深く考えているのか。

あなたがたは、聖霊を受けたら天使の言葉で語ることができるかとわたしが言ったことを覚えていないのか。また、聖霊によらなければ、どうして天使の言葉で語ることができようか。

天使は聖霊の力で語る。したがって、天使はキリストの言葉を語る。さて、わたしは、キリストの言葉をよく味わうようにあなたがたに言った。見よ、キリストの言葉はあなたがたがなすべきことをすべて告げるからである。」(2ニーファイ32:1-3)

宣教師は、知識と働きを総動員して、求道者にバプテスマと確認を理解させる必要があります。そうすることによって、求道者は選択の自由を使うことができます。次の簡潔な言葉を味わってください。

「さて、わたしがこれらのことを述べても、あなたがたが理解できないとすれば、それはあなたがたが求めもせず、また、門をたたきもしないためである。それゆえ、あなたがたは光の中に導かれず、闇の中で滅びてしまうに違いない。

見よ、わたしは、もう一度あなたがたに言うておく。あなたがたがその道によって入り、聖霊を受けるならば、聖霊は、あなたがたがなすべきことをすべてあなたがたに示されるであろう。

見よ、これがキリストの教義である。キリストが肉にあってあなたがたに御自身を現される時まで、これ以上の教義は与えられない。」(2ニーファイ32:4-6、強調付加)

さて、皆さんに理解してほしいのは、水によるバプテスマは、預言者ジョセフ・スミスがはっきりと述べたように、バプテスマの半分ではないということです。民が聖霊を受けていないことを知ったパウロは、最初からやり直させました(使徒19:2-7参照)。

皆さんも、この大いなる祝福を受けることができます。すなわち、静かな細い声に親しみ、その声に導かれて、なすべきことをすべて知るといふ祝福にあずかれるのです。そのような聖霊の語りかけは、促しとか感じという言葉で表現されています。促しは様々なときに、様々な経験を通して与えられます。それは、わたしたちに語られる主の声なのです。

ニーファイは、天使は聖霊の力で語ると説明していますが、皆さんも天使の言葉で語ることができます。それは、単純に言うと、聖霊の力で語るという意味です。聖霊の力は穏やかです。目には

ニーファイは  
説明しています。  
「あなたがたが  
入らなければ  
ならない門とは、  
悔い改めと、  
水によるバプテスマ  
である。  
そうすれば、  
火と聖霊によって  
罪の赦しが与えられる。」



# 宣教師も、親も、 「罪の赦し のために

水に沈める

バプテスマ〔と〕

聖霊の賜物を

授けるための「あんしゅ按手」を

教える責任があります。

見えません。鳩はとになって降くだって来るわけでもありません。舌のようなものが炎のように分れて現れることもないでしょう。しかし、その力は確かにそこにあることでしょう。

時々、本来果たすべき役割の半分しか理解していない宣教師がいます。求道者を教えて水によるバプテスマを施せば、それで役割が終わると思込んでいるのです。往々にして、火によるバプテスマについて教えるという残り半分の仕事は手つかずのままです。「バプテスマ」という言葉を口にするときには、必ず「確認」という言葉も添えてください。水のバプテスマと、確認と、聖霊の賜物を授けることを必ず一つのものとして話してください。これらを切り離すことに違和感を覚えるようになるまで、しっかり頭にたたき込んでください。そうすれば、役割の前半だけを終えて残り半分をやり残すという、よくある誤りはなくなるでしょう。

ジョセフ・スミスの言葉を思い出してください。「もしも罪の赦しと聖霊を受

けることを考えずに人にバプテスマを施すのであれば、砂の袋にバプテスマを施した方がよいでしょう。水によるバプテスマはバプテス

マの半分にすぎません。もう半分、すなわち聖霊のバプテスマがなければ、何の役にも立たないのです。」

宣教師も、親も、「罪の赦しのために水に沈めるバプテスマ〔と〕聖霊の賜物を授けるための按手」の両方を教える責任があります（信仰簡条1:4）。二つを一まとめに話してください。脳裏に焼きつけて、両方いっぺんに口にし、いっぺんに考えるようになってください。そうすれば、感じ、理解し、御霊の促しが得られるようになります。

## 敵対者サタン

一言警告します。それは、敵対する邪悪な霊が存在するということです。これと同じ警告が聖文にも記されています。「悪を行うように、キリストを信じないように、キリストを否定するように、神に仕えないようにと人に説き勧めるものは何であろうと、それは悪魔から出てい

ることをあなたがたは完全に理解してわきまえることができる。悪魔はこのように働くからである。悪魔はだれにも善を行うように説き勧めない。また、悪魔の使いも、悪魔に従う者も、そのように説き勧めない。」（モロナイ7:17）

聖霊からの霊的な語りかけが悪魔の促しや影響にじゃまされる可能性があります。皆さんは、そのようなじゃまを認識できるようになるはずですよ。





わたしたちがこの原則をよりよく理解できるように、ニーファイは次のように教えています。「あなたがたは、祈るように人に教えてくださる御霊に耳を傾けるならば、祈らなければならないことが分かるであろう。悪霊は祈るようには人に教えず、かえって祈ってはならないと人に教える。しかし見よ、わたしはあなたがたに言うておく。あなたがたは……祈らなければならない。」(2ニーファイ32:8-9)

わたしたちは天使が聖霊の力で語りかけると言います。また、人も天使の言葉で語ることができる、預言者から教えられています。そのようなわたしたちは、敵対する影響力が存在することも知らなければなりません。それを察知できるようになることは不可欠です。

ヤコブ書の中に注意すべき言葉があります。「見よ、あなたがたはこれらの言葉を拒むのだろうか。預言者たちの言葉を拒むのだろうか。非常に多くの人がキリストについて語った後に、あなたがたはキリストについて語られた言葉をすべて拒むのだろうか。またあなたがたは、キリストの善い言葉と、神の力と、聖霊の賜物を否定し、聖なる御霊を返けて、あなたがたのために備えられた偉大な贖いの計画をあざけるのだろうか。」(モルモン書ヤコブ6:8, 強調付加)

つまり、御霊は退くこともあるということです!

### 霊的な経験を認識する

特に霊的な経験をしたときには、軽々しく口にすべきではありません。それは私的な経験であり、個人的なものだからです。そのような経験を通して、主が皆さんの選択をあらかじめ御存じであったという非常に個人的な確信を得るようになるでしょう。

また、失敗した後で「そうすべきじゃないと知っていたのに。知っていたはずなのに!」と悔やむことがあるかもしれません。どうして知っていたのでしょうか。なぜなら、知っていたからです。御霊の促しを受けていたのです。

あるいは、こんな後悔をしたことがあるかもしれません。「するべきだと知っていたのに、しなかった。」どうして知っていたのでしょうか。御霊が働きかけていたからです。

御霊の促しは、「急に様々な考えがわいてくる」という形で現れることがあります(*History of the Church*, 第3巻, 381)。

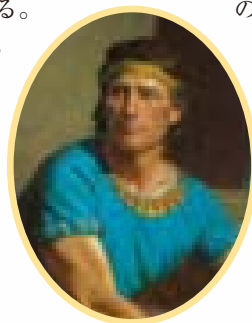
「聖霊によって、わたしはあなたの思いとあなたの心に告げよう。」(教義と聖約8:2)

「善を行うように導く、すなわち、公正に行動し、へりくだって歩み、義にかなって裁くように導く御霊を信頼しなさい。これはわたしの御霊である。

……わたしはあなたにわたしの御霊を授けよう。わたしの御霊はあなたの思いを照らし、あなたの霊に喜びを満たすであろう。

そのとき、あなたは知るであろう。すなわち、これによってあなたは、わたしから与えられると信じながら信仰をもってわたしに願うことで、義にかかわることは何であろうとすべて知るであろう。」(教義と聖約11:12-14)

「わたしはこの件についてあなたの心に平安を告げなかったであろうか。神からの証<sup>あかし</sup>よりも大いなる証があるであろうか。」(教義と聖約6:23)



**モルモンは  
敵対する邪悪な霊  
について警告しています。  
「悪を行うように、  
キリストを信じないように、  
キリストを否定するように、  
神に仕えないようにと  
人に説き勧めるものは  
何であろうと、それは  
悪魔から出ている。」**

### 改心

改心は必ずしも直ちに起こるとは限りません。けれども、静かにやって来ます。静かな細い声です。アルマ書には非常に興味深い聖句が記されています。

「やむを得ずへりくだるのではなく、自らへりくだる人々は幸いである。いや、心をかたくなにすることなく、また御言葉を知るように仕向けられたり、知るように強いられたりして初めて信じるというのではなく、進んで神の御言葉を信じ、バプテスマを受ける人は幸いである。

まことに、もし天からしるしを見せてくれれば、それが確かなことが分かるから信じようと言う人々が大勢いる。」(アルマ32:16-17, 強調付加)

求道者の中には、こう言う人がいるかもしれません。「見た感じとしては正しいし、心にも正しいと感じます。でも、まだ知っているわけではありません。ただ、よい気持ちがあるので。」そのような求道者は、理性によって促されています。彼らは心をかたくなにせず、バプテスマを受けます。そのような人には改心が起こります。

また、こう言う人がいるかもしれません。「聖霊の賜物、火によるバプテスマ、などと言うけれど、どんなものか見せてください! 見せてくれたら、バプテスマを受けますよ。」

人によっては改心に時間がかかります。そのような人に次のように言うと、がっかりするかもしれません。「まず決心してください。そうすれば、その後に分かりますよ! 信仰を働かせることが必要なんです。今は分からなくて、強い確信はないかもしれませんが、必ず分かるようになりますよ。」

## 知恵の言葉

知恵の言葉がこれとどう関連しているか、皆さんにはよく理解できることでしょう。知恵の言葉が「約束を伴う原則として与えられるもので、現在聖徒である、あるいは聖徒と呼ばれ得るすべての聖徒の中の弱い者および最も弱い者の能力に適するもの」として与えられたという点は(教義と聖約89:3)、非常に重要です。

この原則には「走っても疲れることがなく、歩いても弱ることはない」という約束も与えられています(教義と聖約89:20)。それはすばらしい約束です。

しかし、もっと重要な約束もあります。「また、知恵と、知識の大いなる宝、すなわち隠された宝さえ見いだすであろう。」(教義と聖約89:19)

知恵の言葉がなぜ必要か、分かりますか。教会は教会員に、聖霊を受けられるように霊性を保ちなさい、そのために行動を慎みなさいと、強調しています。嘆願していると言っても過言ではないでしょう。皆さんの肉体は、皆さんの思いと霊に従う僕です。だからこそ、十分な配慮が必要なのです。

## 二度と道を踏み外さない

正しく教えられる人は、二度と道を踏み外しません。「そして、主が生きておられるように確かに〔これは、次に述べることは真実であるという誓言です〕、アンモンと彼の同僚たちが啓示と預言の霊によって行った宣教と、彼らを通じて数々の奇跡を行われた神の力によって信仰を持つようになったすべての人、すなわち真理を知るようになったすべての人は、あなたがたに申し上げるが、主が生きておられるように確かに〔ここでも先の誓言が繰り返されています〕、彼らの説教を信じて主に帰依したレーマン人は皆、二度と道を踏み外さなかった。」(アルマ23:6, 強調付加)

正しく教えられ、火のバプテスマである聖霊の賜物を授かった人は、二度と道を踏み外しません。彼らは、生涯彼らを導いてくださる全能の神と結びついたのでした。

## 慰め主

皆さんは、孤独を感じる必要も、孤独になる必要もありません。

「わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。……

わたしはあなたがたを捨てて孤児とはしない。あなたがたのところに帰って来る。」(ヨハネ14:16, 18)

「畑はすでに白くなり刈り入れを待っている。それゆえ、あなたがたは鎌を入れ、あなたがたの勢力と思いと力を尽くして刈り取りなさい。

あなたがたの口を開きなさい。そうすれば、あなたがたの口は満たされるであろう。……

まことに、あなたがたの口を開きなさい。惜しんではならない。

そうすれば、あなたがたは背に束を積まれるであろう。見よ、わたしはあなたがたとともにいるからである。」(教義と聖約33:7-9)

モルモン書に記されたバプテスマの祈りにはこう書かれています。

「そのときにあなたがたの言う言葉は次のとおりである。まず、バプテスマを受ける人の名を呼んで、

『わたしはイエス・キリストより権能を受けたので、御父と御子と聖霊の御名によって、あなたにバプテスマを施します。アーメン』と言いなさい。」(3ニーファイ11:24-25)

わたしはこれらの言葉が真実であることを証すると同時に、御父と御子と聖霊の御三方の名についても証します。主イエス・キリストの使徒として、わたしは主の祝福が皆さんのうえに注がれて、主の御霊が皆さんとともにあり、皆さんが聖霊の力を理解して、聖霊の力によって前進することができるように祈ります。■

2003年6月24日、ユタ州プロボの宣教師訓練センターで行われた新伝道部長訓練セミナーにおける説教から抜粋。

「彼らの説教を信じて  
主に帰依した  
レーマン人は皆、  
二度と道を  
踏み外さなかった。」



## 家族を守る



以下のメッセージから訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や教えを祈りの気持ちで選び、読んでください。自分の経験や証を伝え、あなたが教える人々にも同様に分かち合うように勤めてください。

**扶助協会に所属する祝福**——家族は神によって定められたものです。地上にあっても、永遠においても、家族は神の王国の基本単位です。伴侶や家族とともに幸せになる最も確かな方法はイエス・キリストの福音を基として生活することだと姉妹たちが理解できるように、扶助協会は援助します。

**イエス・キリストの教えは、どのように家庭生活に幸福をもたらしますか。**

**十二使徒定員会 M・ラッセル・バラー**——「全員がこの世で伴侶を見つけ、家族を築くわけではありません。けれどもすべての人は、どのような状況であろうと神の家族の大切な一員です。」（「永続するものこそ最も大切なものである」『リアホナ』2005年11月号、41参照）

**十二使徒定員会 デビット・A・ベドナー**——「御父の幸福の計画に照らし合わせなければ、永遠の結婚の重要性は理解でき[ないということ]を理解していますか。幸福の計画の教義を理解すれば、人は永遠の結婚への希望を抱き、そのために備えるように

なります。結婚を先送りにしたり避けたりする原因となる恐れや不安を打ち消し、乗り越えることができるようになります。幸福の計画を正しく理解すると、永遠の結婚の聖約を確固として尊ぶ決意が強まります。」（「結婚——神の永遠の計画に不可欠なもの」『リアホナ』2006年6月号、53）

**どうすれば家族を守ることができま**

**中央扶助協会会長 ボニー・D・パーキン**——「子供たちに神聖な価値があると教えるとき、家族で教会に集うとき、家庭の夕べを開くとき、家族で祈るとき、ともに聖文を研究するとき、わたしたちは子供を守っているのです。どれも簡単な事柄ですが、非常に力強い守りとなることを皆さんに証します。

宣言では、両親には子供を守る神聖な義務があると教えています。……両親は、子供がどのような友達を選ぶかを知ること、子供を守ります。……また、メディアの影響からも子供を守る必要があります。……〔そして〕生ける預言者に従うときに、わたしたちは守られます。」（「両親が持つ神聖な義務」『リアホナ』2006年6月号、62-63）

**十二使徒定員会 L・トム・ペリー**

——「子供の霊的な必要についてよく考えてください。子供と親密な関係を保つために必要な時間はどれくらいでしょうか。子供を教えるために十分な時間を取ることも、父親、母親としての皆さんの責任です。なぜなら、子供にとって両親の教えほど大切なものはないからです。わたしたちは、子供が教会で学んでいることを熟知したうえで、子供一人一人に教会の教えと一致したことを教える必要があります。」（「互いに愛と関心を示し合う厳粛な責任」『リアホナ』2006年6月号、58）

**第一副管長 トーマス・S・モンソン**

——「わたしたちは偉大な設計士、すなわち主から学ぶことができます。主はどのように家を建てたらよいかを教えてくださいました。……主は……こう勧告しておられます。『あなたがた自らを組織しなさい。すべての必要なものを用意しなさい。そして、一つの家、すなわち祈りの家、断食の家、信仰の家、学びの家、栄光の家、秩序の家、神の家を建てなさい。』（教義と聖約88：119。教義と聖約109：8も参照）」（「天の家——永遠の家族」『リアホナ』2006年6月号、66）■



# 遊泳禁止区域での



# サーフィン

わたしたちは潮に流され、  
危険な岩場へ  
引き込まれそうになりました。

グレッグ・バーゴイン

**最**近、南アフリカのハー  
マナスを訪れたとき  
に、選択の自由の大  
切さを学びました。この小さ  
な町はケープタウンから車で  
約1時間半の所にあり、海岸沿い

にある美しい海辺の町々の一つです。海岸に  
友人とサーフィンをしに降りて行くと、波がやって来るのが  
見えました。

暖かい白砂の上でサーフボードを下ろしたわたしたちは、  
太陽のまぶしさに目を細めながら信じられない光景を見まし  
た。監視員はすでに遊泳区域を示す標旗を立てていました  
が、旗と旗の間の距離は50メートル足らずだったのです！  
海岸は数百メートルにわたって開けていて、良い波はすべて  
遊泳区域の外でした。どうしてあの赤と黄色の縞模様の旗の  
間を泳がなくてはならないのでしょうか。監視員は海辺全体  
を監視するのが面倒なので標旗を立てたのかもしれませんが。

友人もわたしも水泳はかなり得意だったので、右手の遊泳禁  
止区域へ行くことにしました。白く泡立つ水をかき分けて歩  
いて行くと、両足が水に強く引っ張られるのを感じました。  
でも、まだ流れに逆らって立っていることができたので、進み  
続けました。そして、大分深くなってきた所でボードに乗り、  
波のうねりへ向かって進みました。波は絶え間なく押し寄せ

ました。わたしたちはし  
ばらくの間、波乗りを楽し  
んだり、互いが波に乗るの  
を眺めたりしていました。

浜辺の方を見ようと振り  
返ったとき、最初の場所から急  
速に流されていることに気づき  
ました。標旗から遠く離れてい  
たのです！浜からは知ることも見  
ることもできなかったのですが、実  
は海底に広域にわたる砂の堆積が  
ありました。潮が満ちてくると、海水  
が集積した砂を越えて流れ込み、旗  
が立っている区域の両側を大きく波が  
うねり始めるのです。監視員はそれ  
を知っていました。一日中海を見ていて、ど  
こで泳ぐのが安全か分かっていました。

わたしはサーフボードの向きを変え、遊泳区域に向かって  
水をかき始めました。力を振り絞って水をかきましたが、強  
い潮流に逆らって進むことはできませんでした。どんどん沖  
へ流されていきました。パニックに陥ったわたしは、ボード  
から降りて歩こうとしました。足が海底にやっとのことで届  
きましたが、足の指が砂に引きずり込まれるのを感じました。  
体を押し流そうとする何千トンもの水に逆らうことは不可能  
でした。わたしは仕方なくまたボードに乗り、横たわったま  
まなすすべもなく流されていました。友人に助けを求めて手  
を振りましたが、彼も同じ潮流に流されていました。

「警告を無視したわたしを、監視員は助けてくれるだろうか。」わたしは遊泳禁止区域で泳ぐことを自分で決め、今はその結果を受け入れなければなりません。身動きが取れないのです。自分よりもずっと強い力に引っ張られていました。唯一の望みは、海辺の端のゴツゴツした岩場へ引きずり込まれる前に、砂浜へ戻る波に乗ることでした。しばらくすると波がやって来て、何とか岸へ戻ることができました。友人も同様でした。

わたしたちはうなだれながら遊泳区域へ戻り、それからはずっと標旗の間でサーフィンを楽しみました。どちらかが遊泳区域の端の方へ近寄りすぎると、その度に互いに警告しました。

天の御父は、標旗を立てて安全な水域を示すために、預言者や教会の指導者、両親を与えてくださいました。どこが危険な場所なのか、そこへ行くとどうなるかを御存じだからです。御父は旗の間にとどまるように命じられましたが、泳ぐ場所を選択する力も同時に与えてくださいました。指定された区域が狭すぎると感じたり、退屈すぎると思ったりすることもあるでしょう。けれども、そうした標旗が立っているのには理由があるのです。

時折、誘惑の強い力に対抗できると考えて、遊泳禁止区域へ行こうとすることがあります。あるいは、十分気をつけていないために、危険区域へ流されてしまうこともあります。どちらの場合も、最終的には自分よりも大きな力に引っ張られてしまい、選択の自由が制限されてしまいます。わなにはまり、もはや行動を選択することも不可能になり、霊的な命が危険にさらされてしまうのです。

両親や教会の指導者は、わたしたちが罪の強い潮流に流されることがあれば、全力を尽くして救出してくれるでしょう。でも、何もできないときもあるのです。安全水域で泳ぐ人たちは、身動きが取れなくなったり、命を危険にさらしたりすることを恐れずに、一日中泳ぐのを楽しむことができます。

ベニヤミン王は民に次のように警告しました。「もし自分自身や自分の思い、言葉、行いに注意を払わず、神の戒めを守らず、……生涯の最後まで信じ続けないならば、あなたがたは滅びるに違いない。おお、人々よ、覚えておきなさい。滅びてはならない。」(モーサヤ4:30) ■





# 夫の悪習

夫がポルノグラフィーの誘惑に負けたとき、  
わたしは夫を助けるために、自分にできる具体的な方法を見いだしました。

匿名

**愛**する永遠の伴侶がポルノグラフィーの誘惑に負けてしまったことを知ったとき、わたしはそのような状況に置かれた妻が経験する激しい苦痛を味わいました。それは深い心の傷となり、裏切られたという思いと霊的な苦悩にさいなまれました。貴い永遠の結婚の根に当たる部分が、福音という安全に保護された土壌から引き抜かれ、この世の風雨にさらされ、衰え、死へ向かい始めたかのように感じました。まさにパニック状態です。平穩無事な夫婦関係は消えかかり、信頼、尊敬、体面、愛、神権など、すべてが深く傷ついてしまったのです。

数か月前から、わたしは何かおかしいと思っていました。夫とはいつも親しく、結婚生活はとても幸せでした。ところがこのごろ、何か妨げになるような距離を二人の間に感じるようになったのです。

夫は福音を愛し、堅固で信仰深い人でしたが、今は主から遠ざかっているように思えました。聖餐せいさんにあずかったり、神殿に参入したりする望みを失ったようでした。一人でひざまずいて祈る姿もめっきり見なくなり、家族で祈ったり聖文を学んだりしていても、心ここにあらずという様子でした。どこか暗い影があり、とてもふさぎ込んでいるように見えました。怒りさえ抱いているようでした。

夫がどうなるのか、自分たちはどうなるのかと思うと怖くてたまりませんでした。夫がインターネットでポルノグラフィーを見ているのではないかという疑いを感じたからです。夫は会社で長時間、特に夜遅く、独りでインターネットを使っていて、自分のコンピューターはパスワードを入れないと使えないようにしていました。わたしはこのことについて

夫と話そうとしましたが、どう切り出したらよいのか分かりません。夫は問題などないと言い張り、様子がおかしいとしたら仕事のストレスのせいだろうと言いました。

時折、ポルノグラフィーの悪について中央幹部が語った言葉をわたしが読むと、夫は言われていることに心から同意し、洞察力に富んだ意見さえ述べました。そして、わたしを心から愛している、と言ってくれました。しかし、わたしは深刻な問題があるという気持ちをぬぐい去ることができませんでした。夫のために祈り、神殿の祈りのリストに名前を入れましたが、大事な夫が福音という安全な囲いから離れて行く気がしました。

## 神の助けを求める

わたしはとうとう、「求めなさい、そうすれば、与えられるであろう」という聖句を信じて(ヨハネ16:24。3ニーファイ27:29参照)、天の御父のもとに行き、何が問題なのかを知りたいと願い求めました。それはわたしにとって容易なことではありませんでした。もし問題がわたしの憶測したとおりであったなら、どのように対処してよいか分からなかったからです。夫がポルノグラフィーなどに首を突っ込んでいないことをどんなに望んだことでしょう。しかし、問題が何であれ、天の御父は夫とわたしを助けてくださることを知っていました。自分に変わるべきことがあるなら、それが何であれ、変わるために必要な謙遜けんそんさと勇気を求めました。夫をいかに愛しており、二人の結婚生活が喜びに満ち、永遠に続くことをどれほど望んでいるかを御父に伝えました。そして、夫のために断食して毎週神殿に参入する決意をしました。

それから数週間もたたないころ、夫はインフルエンザにかかり、コンピューターをつけっ放しにしたまま、床に就いてしまいました。電源を切ろうとしたとき、突然、調べてみた方がいいと思いました。ポルノグラフィーが見つかりました。

ショックで打ちのめされそうになりながらも、この発見が祈りへの答えであると思いました。どれぐらい長い時間ひざまずき、<sup>ほお</sup>頬を涙でぬらしていたのか分かりませんが、天の御父<sup>あがな</sup>にわたしの気持ちを注ぎ出して祈っているうち、救い主の贖いによって得られる慰めが心を満たし始め、苦痛と恐れは消え去りました。頭でも心でも、霊的な見方ができるようになりました。そして、夫もわたしも、そして二人の永遠の結婚も天の御父にとって大切なものであり、御父はわたしたちを助けてくださる、と確信しました。



これはわたしたち二人の問題であり、夫だけの問題ではないことを非常にはっきりと自覚しました。ただおとなしく傍観し、夫が自分で問題を乗り越えるのを望むことはできないし、またそうしてはいけません。この苦闘にわたしも積極的に取り組む必要があるのです。たやすいことではないでしょう。でも、主を信頼し、忠実かつ従順であり続けるなら、わたしは独りでこの状況と闘うことにはならないでしょう。

祈りを続けているうちに、夫に対して今までとは異なった見方、もっと明るい見方ができるようになりました。夫が人生で多くの苦難に打ち勝ってきたことを



### 神への信頼

「どんなに難しい状況でも、必要なときには神が喜んで助けてくださることを信頼してください。……

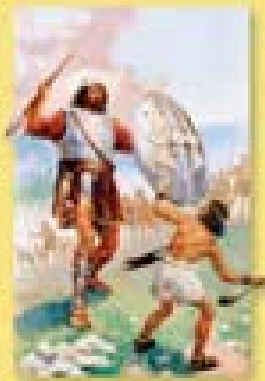
心に安らぎがあること、困った問題に遭遇しても答えを見いだせると確信できること、究極的な喜びに満たされること、これらは天の御父と御子イエス・キリストに対する信頼に懸かっています。」

#### 十二使徒定員会

リチャード・G・スコット

「不確かで困難な時代に  
支えとなる信仰の力」

『リアホナ』2003年5月号、  
76-77



いしへの  
ダビデのように、  
夫とわたしは  
現実の中に潜む  
強力なゴリアテに  
立ち向かい、  
打ち勝ちました。  
今後も様々な困難が  
生じるでしょうが、  
その度に  
適切に対処する力を  
得られるよう、  
わたしたちはこれからも  
天の御父と救い主に  
頼って生きていきます。

わたしはすでに知っていました。そして今、夫が自分の永遠の命とわたしたちの永遠の結婚のために進んで闘おうとしていることを知りました。天の御父に対する深い愛と信仰、そしてわたしへの愛が伝わってきました。しかし同時に、愛や信仰、信頼をはぐくむことは、夫にとって常に容易であるとは限らないことも理解できました。

夫が天の御父と救い主への信頼を深めるのを助ける必要がある、と思いました。この信頼があれば、夫は天の御父にへりくだって祈りをささげ、赦しと力を懇願し、自分を苦しめる悪霊のような罪から逃れられるようお願い求めています。そしてこの悪い習慣にまっすぐ向き合う強さを得るでしょう。

### 主の導きに従う

主から力を受けたわたしは、一步一步、行動するようになりました。夫が癒されるためには、誘惑から遠ざかる必要があると強く感じ、しばらくの間インターネットを使えないように契約を解除しました。こういうときに、別の答えを受ける人もいますでしょう。しかし、わたしたちにとっては、インターネットの契約をしばらく解除することは大きな祝福となりました。夫は2、3日誘惑から遠ざかると、この措置がいかに有効かをすぐに悟りました。夫はこの罪を独りで乗り越えようとし、自分には十分な強さがあると思っていたそうです。でも、それができないと分かると、恥ずかしくなり、わたしにも神にも罪を秘密にしようと思いました。でも今や、希望を見だしているのです。わたしたちはともに泣き、ともに祈りました。

親しい友人から神権の祝福を受けました。数年前に夫にバプテスマを施してくれた人です。祝福の中で、主が夫を愛しておられることを何度も告げられました。また夫は、わたしを信頼し、心を打ち明けるように勧められ、善と悪を見分ける力を得られるよう祝福されました。ポルノグラフィは人の善悪を判断する力を損なうので、この祝福は大きな助けになりました。

神権の祝福はわたしたち二人を強めてくれま

した。わたしは自分の霊性を高めるためにいっそう努力しました。例えば、しばしば断食し、よく祈り、神殿に参入し、聖文、特にモルモン書を熱心に読みました。二人で一緒にしていた聖文の研究や祈りが再び楽しくなりました。

祈るだけでなく自分で努力して知識を得る必要があると思い、ポルノグラフィに関する中央幹部の教えをできるだけ読み、末日聖徒の専門家が書いた本も読みました。夫と一緒に何人かの神権指導者に相談に行きました。彼らは、続けて努力するよう励ましてくれ、この闘いに必ず勝てるかと信じていると言ってくれました。

夫と率直に話そうという気持ちになりました。大した罪ではないとか、大目に見ましようなどとは決して言わないようにしました。この件については、祈って感じたことからそれないように話すとともに、言うべきだと感じたときだけ、話すようにしました。とても多くの導きと靈感を受けることができました。

それでもふと心が痛むことが時々ありました。最初のころは特にそうでした。そのようなときには、天の御父に祈りました。夫をどれだけ愛しているかもっと伝えようと思いました。二人は運命共同体であり、一緒に敵と闘っていることを夫に気づいてもらう必要がありました。最良の友である妻がそばにいます。悔い改める過程を通して夫の生活に再び福音の光がさすのを見ることは、わたしにとって実にすばらしい経験でした。

かつて強く、善良であった夫を、わたしは愛していました。いろいろな記事や書物を読んで、ポルノグラフィは自尊心を奪い取ることを知りました。だからこそ、夫が自信を取り戻せるようにできる限りのことを行っただけです。また、自分の失敗や弱点を以前より素直に認め、夫の助言や勧告をもっと頻繁に求めるようになりました。夫の意見や援助を謙虚に受け入れ、感謝しました。そのおかげで、ともに強くなることができました。

わたしは前向きで楽しい経験を夫と一緒にできるよう努めました。福音の光を生活に取り入れたいと思いました。そうすることで夫に、



変化を感じ、それを味わってもらいたかったのです。しばしば一緒に散歩をしたり、郊外へのんびりドライブをしたりして、神が造られた美しい世界を楽し



みました。こうすることで夫が強められ、再び誘惑に遭ったとしても、身の回りの善良で美しいものを思い起こして、誘惑に打ち勝てるようになるのではないかと思ったのです。

### 再発に悩む

その後、夫が勤めていた会社の業績が悪化し、倒産に追い込まれました。多くの人が失業しました。夫もその一人でした。これは夫にとって精神的な打撃でしたが、経歴も技能もあったので、すぐに別の仕事が見つかるという自信がありました。

それは間違いでした。数か月たっても、仕事は見つかりませんでした。夫にとって、常に前向きな気持ちでいることがだんだん難しくなりました。夫はとても傷つきやすくなっていました。わたしはそのことに気づいてはいましたが、これ以上どうしたらよいか分かりませんでした。インターネットの契約を再開しました。ただし今回は、有害なウェブサイトを見ないで済むようにフィルタープログラムを設定しました。わたしが仕事に出ている間、夫は家にいて、インターネットを使って仕事探しに多くの時間を費やしていました。しかしある日、夫はフィルターを外してしまいました。コンピューターに詳しい人がフィルターを解除できないなどと思ってはいけなかったのです。わたしはすぐに悪習が再発したことに気づき、初めはぎょっとしました。また一からやり直さなければならない

のだろうか。すると、夫は自分が何をしたかわたしにわかるようにしていたのだ、と気づきました。夫はほんとうは乗り越えたいと思っていたのです。再びわたしたちは一緒に泣き、祈りました。そして、二人の距離は前よりいっそう近くなりました。


祈っているといつも<sup>あんど</sup>安堵感に包まれ、この問題を二人は乗り越えられる、と感じました。夫もわたしも、この悪習は思っていたよりもずっと根強いものだということが分かりました。夫はわたしたちが二人とも家にいるときだけインターネットを使うことに同意しました。夫がもっと強くなったと自覚できるようになるまで、わたしがパスワードを管理することにしました。

やがて、夫は大きな祝福を受けました。アルバイトを見つけ、それが縁で現在の良い仕事に就くことができたのです。夫はこの祝福に心から感謝しました。自分の生活に天の御父の温かい<sup>あわ</sup>憐れみが注がれた証拠だと悟ったのです。

夫が十分長い間ボルノグラフィーから遠ざかり、監督が定めた期間が経過したとき、神殿の推薦状が更新されました。罪のつらい苦痛をしっかりと味わった夫が悔い改めたときに感じた喜びは、アルマが表現したようにこの上なく麗しいものでした(アルマ36:21参照)。監督室から出て来た夫の軽やかな足取りをわたしは今でも覚えています。まさに、重荷が降ろされたのです。

### 祝福への感謝

数年たった今、わたしはこの文章を書いています。今なおこの経験を通して受けた多くの祝福に感謝でいっぱいになります。天の御父と救い主に対する夫の愛は、彼の信仰とともに、計り知れないほど深まりました。夫はいっそう謙虚になりました。二人とも、救い主の贖いへの感謝の気持ちが深まりました。天の御父と救い主に頼ることにより、わたしたちは現実の中に潜む強力なゴリアテに打ち勝ちました。主を信頼することによりあらゆる問題を乗り越えられることを実感しながら、手を取り合って、将来に向かって歩んで行くことができるのです。■

A man with short, light-colored hair is shown from the chest up, looking down at an open book he is holding. The background is a blurred interior of a train, with wooden paneling and a window. The lighting is warm and focused on the man and his book.

# ロシアの 列車 の中で

ロシアで20時間列車に  
乗っている間に、少なくとも一人の  
あかし証が強まりました。

アミリン・ウーリー・レイノルズ

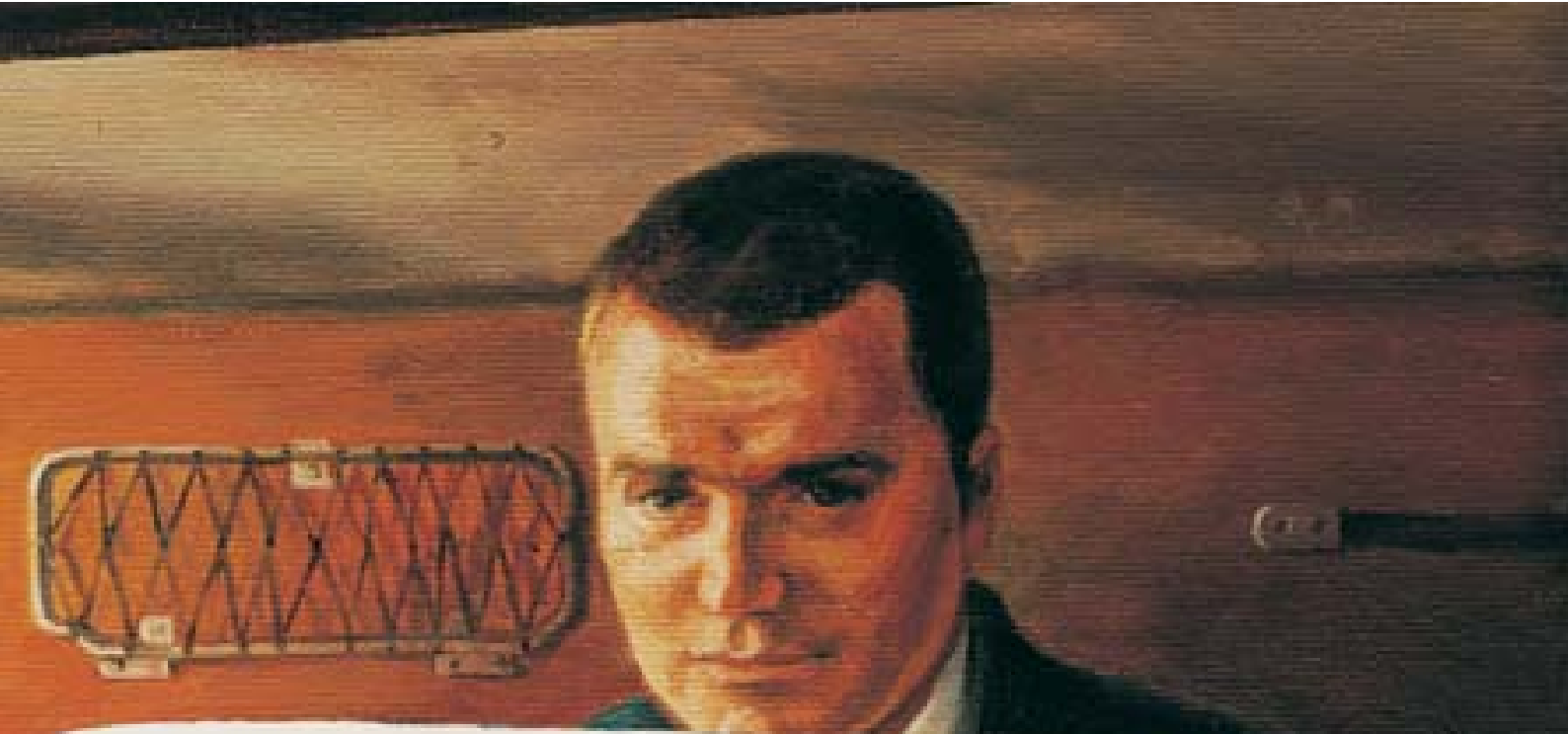
**ボ**ランティアの英語教師としてロシアを訪れたとき、ロシア語はほとんどできませんでした。しかし、そこで生活するうちに、ロシアの人たちに仕え、福音を伝えたいと望むようになり、ロシア語をもっと熱心に勉強するようになりました。

まず、ロシア語で書かれた子供用のモルモン書を読むことから始めました。露英辞書を片手に、悪戦苦闘しながら1日1章のペースで読みました。ほとんどの単語の意味を調べなければなりません。それから自分なりにロシア語で祈るようになりました。自分の口か

らつかえながら出てくる外国の言葉を聞くと、自分が愚かに思えてしまうほどでした。最後に、証の仕方を学びました。練習のために、よく日記にロシア語で証を書きました。ロシア語を身に付けるのは大変だということを悟るまでに、さほど時間はかかりませんでした。

ロシアのウファに滞在するようになって3か月近くたったころに、もう一人の英語教師と、遠く離れたサラトフという町へ旅行する計画を立てました。駅には、わたしたちを温かく受け入れ、滞在させてくれる、末日聖徒の家族が迎えに来てくれていました。サラトフでの時間はあっという間に過ぎ去り、もう一度、列車に乗りました。列車に20時間揺られてウファに戻るのです。

二人のビジネスマンと小さな客室を共有することになり、わたしたちは少し緊張しました。しかし、非常に上品な人たちだったので、すぐに安心しました。



サラトフを離れる前に、滞在させてくれた家族が、模範になることの大切さについて話してくれました。「すべての人があなたたちを見ているということを忘れないでください。すべての人です。」そして伝道用パンフレットをわたしたちに渡しなが、ウファに着くまでにだれかに渡すようにと励ましてくれました。「ほんとうに渡せるだろうか。」そう思いながら、向かい側に座っている二人の男性に目をやりました。わたしはため息をつき、恐らく興味を示してはくれないだろうと決め込みました。

しかし、わたしが聖典を開いて読みだすと、男性たちは興味を持ち、質問をしてきました。それで、わたしたちがパンフレットを差し出すと、二人はそれを読んでくれました。

旅の半ばで日記を書きました。その二人の男性から、どうしてロシア語で書かないのかと尋ねられました。そこで、わたしはロシア語で書くこともよくあると言って日記を見せました。たまたま開いたページにわたしは証を書き留めていました。二人が読んでほしいと言ったので、わたしは喜んでそうしました。ロシア語のモルモン書を差し出すと、二人は熱心に読み始めました。二人が質問をしてきたときに、客室はあふれんばかりの御霊に満たされました。一人の男性が、こう言いました。「わたしの心の内にある『炎』を、あなた

も感じるすることができますか。これが何なのか分かりますか。」わたしはつたないロシア語で、それは聖霊だと説明しました。

わたしは彼に第三ニーファイ第11章を読んでもらいました。アメリカ大陸で救い主が教え導かれた場面と一緒に読んで、彼の目に涙が浮かびました。彼は読むのをやめ、静かにこう尋ねました。「イエス・キリストは、この人たちのように、わたしも愛しておられるのでしょうか。」

わたしは目に涙を浮かべ、こう答えました。「そうです、救い主はあなたを御存じであり、愛しておられます。だから、救い主は福音が真実であることをあなたに知ってほしいと望んでおられるのです。」彼はしばらくわたしを見詰め、それから目を落として読み続けました。ウファに到着すると、わたしたちは彼に宣教師の電話番号を教えました。

20時間列車に乗るといって特別な経験を通じて、専任宣教師ではなくても、主に仕え、福音を伝えられるのだということを知りました。あの夜まかれた小さな種がその後育ったかどうか、わたしには分かりません。しかし、確かに奇跡が起りました。たとえあの男性たちが改宗には至らなかったとしても、わたし自身は改心したのですから。■

# 主の召し

七十人  
ウィリアム・R・ワーカー

**信** 仰箇条の第5条には、末日聖徒の基本的な信条の一つが述べられています。すなわち、わたしたちは「預言によって、また権能を持つ者によるあんしゅ接手によって、神から召されなければ」なりません。

ほとんどの教会員が、召しを受けるために監督室や支部長室に招かれたことがあるでしょう。そしてわたしたちの多くが、その召しを受け入れる信仰と勇気を持てるように祈ってきました。なぜならわたしたちは、指導者が祈りをもって天の御父の導きを求め、靈感を受けていると信じているからです。

わたしたちは自分に最も適していると思う役職に自分自身を推薦することはありません。そのことを興味深く思う人がいますが、末日聖徒が王国で働くように召されるときの特徴な方法は、主の教会の際立った特徴なのです。

以下の原則は、どうすれば召しをもっと効果的に果たせるかを理解する助けとなるでしょう。

## 「どこで奉仕するかではなくどのように奉仕するか」

どのような召しであろうと、取り組む姿勢に、主への献身の度合いが映し出されます。J・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長(1871-



**どのような  
召しであろうと、  
取り組む姿勢に、  
主への献身の度合いが  
映し出されます。**

1961年)は、次のように教えています。「主に仕えるに当たって大切なのは、どこで奉仕するかではなくどのように奉仕するかです。末日聖徒イエス・キリスト教会において、人は正当に召されるべき職を受けます。いかなる人もその職を求めるべきではなく、また断るべきではありません。」<sup>1</sup>

日本横浜ステーキの遠藤大兄弟は、この原則を忠実に実行した人物です。ステーキの副会長として、またその後には会長として、長年にわたって奉仕した後、遠藤兄弟は2000年に解任されました。解任されたときのステーキ大会で自らの証を述べた際、遠藤兄弟は聖徒たちへの愛と、彼らと主に仕えるという祝福への感謝を述べました。ほほえみながら、遠藤兄弟は次のように言いました。「来週、わたしはきっと初等協会あかしで働くように召されるでしょう。」

翌週、遠藤兄弟の監督は彼を面接に呼び、初等協会の教師として働くよう召しました。前ステーキ会長である遠藤兄弟は謙遜に、快く召しを受け入れました。喜んで仕えたいという遠藤兄弟の思いは、召しに伴う地位に左右されることなく、どこに召されようとも主に仕えたいという望みから来ていたのです。

ス テーク会長  
として  
奉仕した後、  
遠藤大兄弟は  
初等協会で教える召しを  
忠実に受け入れた。  
彼の第一の望みは  
主に仕えること  
であった。



### 主から召されている

イエスは御自分の十二使徒となる人たちを捜し出して、召されました。主の教会で働く人々は、これと同じ規範に従って召されます。

かつてわたしは恵まれて、ジェームズ・E・ファウスト第二副管長が子供たちに勧告を与える場に居合わせました。彼らの父親たちがワードの監督会で働くよう召されて間もないときでした。

ファウスト副管長は、子供たちに次のように語りました。「さて、皆さんに覚えておいてほしいことがあります。皆さんのお父さんたちはこれらの責任を自分から願い出たのでは

ありません。新しい監督会を組織する必要があることを示す書類に自分で名前を載せたものではありません。その仕事を求めて働きかけたのではなく、召されたのです。このワードの新しい監督会として働くように、靈感と啓示によって主から召されたのです。そしてお父さんたちは召しにこたえ、喜んで仕えたいという意志を示しました。これからお父さんたちは、神の権能をもって御業を推し進めていきます。」

教会において繰り返し行われているように、この兄弟たちを監督会に召すことにかかわった人たちは、終始主の御心と導きを求めました。

### 「あなたは彼女たちを召さなかったのです」

十二使徒定員会会長代理のボイド・K・パッカー長老は、ある指導者訓練集会での出来事をこれまで幾度か語っています。その集会で、一人の監督がだれもワードの初等協会会長として奉仕することを引き受けてくれないと述べました。挫折感を抱いていたその監督は、ワードにいる9人の姉妹に話をしてきましたが、召しに応じた姉妹は一人もいなかった、とのことでした。

パッカー長老はその監督によれば、自分には姉妹たちが一人も仕えることに同意しなかった理由が分かると言いました。「あなたは彼女たちに頼んだのであって、召さなかったのです。」パッカー長老は、もし召しが適切に告げられてい

たならば、だれかに召しを受け入れてもらうために9度も試みる必要はなかっただろうと言いました。

召しを与えるということに直接相当するものは、俗世にはありません。神権の鍵を持つ人は、人に奉仕するよう頼んだり、割り当てたり、あるいは勧誘したりはしません。人を召すのであって、その召しは主から授けられるものなのです。

### 解任

召されるのと同じように、わたしたちは解任されます。責任を自ら求めないのと同じように、自ら退任したりしません。自分を召したのと同じ権能を持つ人によって解任されます。

**男**性は妻を見た。  
そして一言も  
語ることなく、  
彼らは召しに対する  
互いの答えを知った。



1947年、当時十二使徒定員会の会員であったエズラ・タフト・ベンソン長老(1899-1994年)が、わたしの祖父ジェームズ・H・ワーカーを、カナダのアルバータ州レイモンドにあるテーラーステークの会長に召しました。そのときまで、祖母ファニー・ワーカーは幾年にもわたってステーキ若い女性会長として仕えていました。祖母はこの責任を愛していました。

ワーカー会長に召しを与えたとき、ベンソン長老は、ワーカー会長の妻はステーキ若い女性会長の務めを続けるべきではないと言いました。夫が責任を果たすのを支えられるように、また、祖父の家族以外の人仕える機会を得られるようにするためでした。祖母は残念に思いました。祖母は若い女性たちを愛し、自分の召しを愛し、その立場で奉仕し続けたいと思っていました。

何年もたった後に、ベンソン大管長はその出来事を詳しく話してくれました。「わたしたちがあなたのおばあさんを解任したとき、彼女はとてものがっかりしていました。でも次に会ったときには、自分が解任される必要があったことを理解しており、それを受け入れてくれると言ってくれました。」

同様にわたしたちも、大好きな召しから自分を解任するという靈感を指導者が受けたのなら、そのことを感謝して受け入れ、また認める必要があります。

### 決意をもってこたえる

忠実な教会員が召しにこたえるときに示す態度は、注目に値します。教会の歴史は、相当な犠牲が求められる召しに、献身的な聖徒がどのようにこたえたかという物語であふれています。

バックャー長老は、ヘンリー・D・モイル副管長(1889-1963年)がある男性に教会の伝道部を管理する召しを与えたときに、その場に同席していました。モイル副管長は男性に次のように言いました。「決断を急ぐようにせき立てたくはありません。1日か2日、この召しを受け入れるかどうか考え、決まり次第、電話を頂けますか。」

バックャー長老は次に起こったことをこう語っています。

「男性は妻を見、妻は彼を見ました。そして一言も語ることなく、夫婦は沈黙の会話を交わし、気づかないほど穏やかにうなずき合いました。男性はモイル副管長の方に向き直り、次のように言いました。『副管長、申し上げることはありません。今お伝えできなくて、数日後ならお伝えできることもありません。わたしたちは召されたのです。ほかにどのような返事があるでしょう。もちろん召しにおこたえします。』

するとモイル副管長は穏やかに次のように言いました。『もしそのようにお感じになるのであれば、実は、この件に関しては少々急を要します。3月13日に出発するように準備していただくことはできるでしょうか。』

男性は息をのみました。わずか11日後だったのです。彼はちらっと妻を見ました。再び沈黙の会話が交わされ、彼は言いました。『はい、副管長、間に合わせられます。』

『仕事はどうするのですか』と副管長は尋ねました。『穀物倉庫はどうするのですか。家畜はどうするのですか。そのほかの財産はどうするのですか。』

『分かりません』と、その男性は言いました。『でも何とかして調整します。すべてうまくいくでしょう。』<sup>2</sup>

通常は、これほど緊急性を求められることはありません。このような役職に召される人は、たいてい自分たちの諸事を整えるのに十分な時間を与えられます。この場合は急を要したわけですが、この夫婦は信仰と、献身と、断固とした決意をもってこたえました。わたしたちがどのように召しにこたえるべきかについての、実にすばらしい模範です。

### 召しを尊んで大いなるものとする

モルモン書の中で、召しを尊んで大いなるものとするについて非常に雄弁に述べている箇所の一つに、預言者ヤコブによる言葉があります。ヤコブはこう書いています。「わたしたちは……主に対して自分たちの務めを尊んで大いなるものとした。」(モルモン書ヤコブ1:19) 神権の誓詞と聖約が記されている教義と聖約第84章には、自分の召しを尊んで大いなるものとする人は「御霊により聖められ[る]」と述べられています(33節)。

わたしたちの多くが、召しを尊んで大いなるものとするとはどういう意味であるかを理解しようと努力してきました。トーマス・S・モンソン第一副管長は次のように述べています。

「召しを尊んで大いなるものとするとは、どういう意味でしょうか。それはその召しの威厳と重要性を高めることであり、だれの目にも尊く、称賛に値するものとして映るようにし、さらに召しを拡大し、強化して、それによって人々に天の光を輝きわたらせることです。では、どのようにして召しを尊んで大いなるものとするのでしょうか。簡単に言えば、召しに伴う奉仕を行うことによってです。」<sup>3</sup>

十二使徒定員会のヘンリー・B・アイリング長老は、召しにおいて導きを受ける方法について次のように教えています。

「召しにはすばらしい約束が伴っています。そのような約

束の一つは……主があなたを召したときまったく同じように、啓示によってあなたを導いてくださるということです。なすべきことを知るには、信仰をもって啓示を求めなければなりません。召しには答えが得られるという約束が伴っています。しかし、そのような導きを与えられるのは、あなたがそれに従うことを主が確信されたときだけです。主の御心を知るには、それを行うという決意が必要です。『御心が行われますように』という言葉が心に書き記されて初めて、啓示の窓が開くのです。』<sup>4</sup>

### 主がそれを可能にしてください

要約すると、教会における召しに関連する重要な原則には以下のようなものがあります。

1. 召しを与える権能を持つ人は、祈りをもって主の靈感を求めする必要があります。そして靈感を受けて決断がなされたときに、召しを威厳と敬虔さをもって適切に与える必要があります。また関係するすべての人が、その召しが主から与えられるものであることを理解する必要があります。
2. わたしたちは喜んで仕えます。自分からは申し出ません。召されるのです。
3. ある役職に召されているとき、その召しが自分のものではなく、自分を召したのと同じ権能を持つ人によっていつの日か解任されるということを謙虚に覚えている必要があります。
4. 解任の時がやって来たときには、快く受け入れ、仕える機会が与えられてきたことに感謝する必要があります。靈感によって召されるのと同じように、同じ靈感によって解任されるということを確認する必要があります。また自分に代わって召される人を支持する必要があります。
5. 召しと解任は自分に都合がいいときにやって来るとは限りません。主が定められた時を信頼する必要があります。
6. 夫または妻が多くの時間と犠牲を求められる役職に召されたときには、その人の伴侶が重い責任から解任されることが、召された本人および家族にとって最善となるでしょう。
7. 召しにこたえるに当たって、主に信頼する必要があります(箴言3:5-6参照)。
8. わたしたちが最善を尽くし、主の助けを求めるとき、主はわたしたちの努力を尊重し、意義あるものとしてくださいます。
9. 召しとともに、大いなる約束と祝福が与えられます。



**イエスは御自分の十二使徒となる人たちを召された。主の教会で奉仕する人々は、これと同じ規範に従って召される。**

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は次のように述べています。「奉仕するように求められたときには、いつでもその求めにこたえるようにお勧めします。そうするときに皆さんの信仰は強まり、また増すでしょう。……もしすべての機会を受け入れるならば、もしすべての召しを受け入れるならば、主は皆さんがそれを果たせるようにしてください。主の助けを得ても達成できないようなことを、教会が皆さんに要求することはありません。皆さんに神の祝福があって、行うように求められるすべてのことを行うことができますように。』<sup>5</sup>

自分の召しにおいて仕えるときに、主が王国を築き上げられるのをお助けできるというのは、何という祝福でしょうか。■

#### 注

1. Conference Report, 1951年4月, 154
2. *Follow the Brethren*, Brigham Young University Speeches of the Year (1965年3月23日), 8
3. 「神権の力」『リアホナ』2000年1月号, 60参照
4. 「神からの召し」『リアホナ』2002年11月号, 76参照
5. 「生ける預言者の言葉」『リアホナ』1999年4月号, 18参照



# 空回りしていませんか？



あなたを忙しくさせているものは、  
ほんとうに価値あるものですか？  
(マタイ6:33参照)

## 真理を 見いだすまで

トリニー・ジョベル

**11** 歳くらいから、わたしは聖書を読みたいと思うようになりました。でも、わたしの育った家では聖書をとても神聖なものと考えていたので、クローゼットに鍵をかけてしまっており、自由に読むことができませんでした。わたしが13歳、弟が12歳のとき、家族でカナダの美しい地方へと移り住み、16歳から20歳までわたしは二つのキリスト教の教会に出席していました。両方とも聖書を使って正しい原則を教えていました

が、学んでいるうちに、二つの教会は会員同士がうまくいっていないという話を耳にしました。それ以来どちらの教会にも行くのをやめ、それから3年が過ぎました。

23歳のときにディスコで一人の青年に出会いました。数か月後にその男性と結婚し、やがて最初の子が生まれました。わたしたちの家庭はすべてがうまくいっていました。彼は一生懸命に働き、帰宅も早く、家事も手伝ってくれました。とても幸せで、家庭は平安に満たされており、わたしは神のことをすっかり忘れていました。

しかしある日突然、夫が友人とディスコに通い始めたのです。バーにも足を向けるようになり、数か月もしないうちに夫はお酒を飲んでは大騒ぎをす

るようになりました。結局わたしは仕事を辞め、夫のもとを去りました。ところが別れて間もなく、二人目の子供を妊娠していることを知ったのです。悲嘆に暮れたわたしは、安らぎを見いだすすべもなく落ち込み、寝ても覚めても泣いて過ごしました。しかし、友人である一人の女性のおかげで、わたしは再びあるキリスト教の教会に通うようになりました。

それからは、神にかかわる事柄について以前よりも真剣に考えるようになり、いろいろな教会について調べるとい目標を作りました。教会に行く前には、良いものを選び悪を拒むことができるよう知恵を授けてほしいと、ひざまずいて天の御父に祈りました。

通い始めた教会のほかにも、いろい

い てつく  
風の中を  
赤ちゃんを  
抱えて歩いていた  
わたしは、  
心がとても  
重くなりました。  
車は、別れた夫が  
持って行って  
しまいました。



ろ訪ねてみましたが、どこも違う教義を教えていて混乱することが度々ありました。迷えば迷うほどわたしは熱心に祈りました。どこかの教会に足を向ける度に、何かが足りないような気がしました。でも、それが何かは分かりませんでした。そこで、いろいろな教会を調べて、真理を見いだすまではあきらめないという目標を立てました。

ある日、弟夫婦を訪れたわたしは、暗くなってから家路に就くことになり、バス停までかなりの距離を歩かなければなりません。1992年の3月、それは風の吹きすさぶとても寒い日でした。当時まだ赤ちゃんだった子供は腕の中でしきりにむずかっていました。わたしは何度も後ろ向きになりながら歩きました。自分が盾になることで子供に風が当たらないようにするためです。

凍えそうになりながら幼子を抱えて歩いている自分の姿を思うと、悲しさが込み上げてきました。車は別れた夫が持って行ってしまったのです。自分が直面している人生の過酷さを思うと、心がとても重くなりました。わたしは子供のように泣きだしました。辺りを見回すと、人影はまったくありません。泣きながら大声でこう叫びました。「天のお父様、どうか光を見いだせるようにわたしを助けてください。」

ようやくバス停にたどり着き、やって来たバスに乗り込み、いつものように前列の座席に腰を下ろしました。何げなく左側を見ると、白いワイシャツにネクタイを締めた二人の青年が座っていました。そのうちの一人がわたしのところに来て、たどたどしいスペイン語で「あなたもスペイン語を話しますか」と話しかけてきました。

「はい、もちろん」と答えました。

「イエス・キリストの福音を聞きたいと思いませんか」とその青年は尋ねました。

「イエス・キリストの福音。」何とす

ばらしい響きを持つ言葉でしょうか。それまで幾つもの教会を訪れてはみましたが、「御言葉」「福音」「良い知らせ」という言葉はよく耳にしたものの、このように麗しい言葉は一度も聞いたことがありませんでした。そこでわたしはとてつとてわくわくしながら、自分の住所と電話番号を彼らに教えました。

その後わたしは宣教師から福音を学び始め、1992年の6月にバプテスマと確認を受けました。その特別な日のことを生涯忘れることはできません。バプテスマの水に入る前はまるで鉛の足で歩いているようでしたが、水から上がったからは空中を飛んでいるような気分になりました。そして宣教師たちがわたしの頭の上に手を置いて聖霊の賜物を授けてくれたときには、温かい気持ちが体の中に注がれ、それまで感じたことのない平安に満たされました。涙が頬を伝ってとめどなく流れました。驚いたことに、その涙は苦痛や悲しみからではなく、大きな喜びと平安からであることに気づきました。

バプテスマを受けて数か月後にわたしは託児の責任を受け、その後初等協会の教師に召されました。そして1年後にはエンダウメントを受けました。また、教会ですばらしい男性に巡り会い、1994年9月にカナダのトロント神殿で結び固めを受けました。そして3年後に、かわいい男児を授かりました。

今もわたしは教会の召しを頂いて奉仕しています。そして愛する人たちに福音に対する証を伝えるようにしています。イエス・キリストの福音は、栄光にあふれた天から与えられ、主の戒めに忠実であるならば、この福音を通してわたしたちは自らを変えることができるのです。わたしはそう確信しています。■

## ベツィーのために バイオリンを

ジェシカ・マルティネス

ステーションワゴンの後部に最後の荷物を押し込むと、ドアをボタンと閉めて時計を見ました。予定どおりでした。試験の採点も済んで成績もつけ終わり、車には必要なものをすべて詰め込みました。今すぐ出発すれば、暗くなるころまでにはケンタッキー州ルイスビルに到着するはずでした。

インディアナ州サウスバンドに住んでいたわたしは、その日まで長くうとうしい2週間を過ごしていました。法科大学院の学生だった夫のマークは、ルイスビルで夏のインターンシップに入っていました。サウスバンドで高校の教師をしていたわたしは、終業式までまだ2週間あったため、夫と合流できずにいたのです。

ほっとした気持ちで車に乗り込み、スピードを上げて車を走らせました。目的地までは5時間を見込んでいました。1時間も走ったところで、サラとその娘のベツィーのことを考え始めていました。9か月前、扶助協会ですべての親と会いました。赤ちゃんを抱いて後ろの方に立っていたサラは、次のようにわたしに声をかけてきました。「サラといいます。ユタから来たの。この子はベツィー、天国から来たのよ。」おかしくて笑ってしまいましたが、たちまち彼女を好きになりました。わたしも彼女も、法科大学院の学生の妻でした。そして彼女がわたしの訪問教師に召されたことで、わたしはとてつとてうれしくなりました。

わたしがサウスバンドをたつ1か月ぐらい前、ベツィーは発作に苦しんでい

ました。いろいろ検査した結果、脳に大きな腫瘍しゅようがあることが分かり、手術はほとんど不可能に近いものの、手術をしなければベツティーが生存できる可能性はないというのが医師の診断でした。

サラのことを思うとわたしの心はひどく痛みました。ワードはもとよりステークの会員たちも奇跡を願って断食し、祈りました。脳の外科手術を受けたベツティーは医師団を驚かせました。耐えられるはずがないと思われていた手術をベツティーは見事に耐え抜いたのです。腫瘍の一部が切除されただけでしたが、ベツティーは少しずつ快復していきました。幼い体に決定的なダメージを与えることなく残りの腫瘍をどう治療すべきか、両親はとてつもなく難しい決断を迫られていました。

手術が行われたインディアナポリスは、わたしが向かっていたルイスビルルイスビルの途中にありました。彼女の夫は受け損ねた期末試験の追試を受けるためにサウスベンドに戻っていましたが、サラとベツティーはまだ病院に残っていました。

時計を見たわたしは、素通りする口

実をあれこれ考えることもできましたが、病院に立ち寄るよという内なる声を打ち消すことはどうしてもできませんでした。そこで高速道路を降り、公衆電話を使って病院に電話をかけ、ベツティーの病室につないでもらうと、サラが出ました。サラは電話を喜んでくれました。わたしが立ち寄れば大喜びしてくれるでしょう。御霊みたまの促しに従うことにしたわたしは、平安で穏やかな気持ちになりました。

病院に向かう途中、後部座席に置いたスーツケースと本を入れた段ボールの間にバイオリンを無造作に詰め込んであったことを思い出しました。3歳からバイオリンを習い始めたわたしですが、ここのところ何週間も弾いていないことに気づいて後ろめたい気がしました。音楽はわたしの人生にいつも喜びをもたらしてきました。

バイオリンを持って行ってベツティーのために演奏すべきだ、という思いが浮

かびました。普段そんなことは思いも寄らないことでした。何の前触れもなくバイオリンを持って行って、その場に居合わせた人々を即興の演奏会につきあわせるなんて、少々厚かましい気がしました。しかしこの思いつきは、ベツティーのお見舞いに行くよという御霊みたまの促しと同じであることに気づいたのです。

病室に行くと、サラは疲れた様子でしたが、とても喜んでくれました。ベツティーの頭には大きな管が付けられ、のどにも別の管が挿入されていました。その小さな体を見、ひとみをのぞき込むと、今までこの子がどんなに激しい痛みいたみに悩まされたことか、また今後もどれほど大きな苦痛に耐えなければならぬのか、と思いました。



**1** 時間以上も  
賛美歌や  
初等協会の歌、  
クラシック音楽などを  
弾き続けました。  
演奏の間、  
ベツティーは  
目をまん丸くして  
わたしを  
見詰めていました。

サラは、わたしがバイオリンを持参したことに感激していました。そこで1時間以上も賛美歌や初等協会の歌、クラシック音楽、その他、彼女がリクエストする曲を覚えているかぎり演奏し続けました。演奏の間、ベッツィーは目をまん丸くして、わたしをじっと見詰めていました。サラは、手術を受けて以来ベッツィーがこんなに鋭敏な反応を示したのは初めてだと言い、「もっと弾いて」と催促しました。入院中のほかの子供たちも親と一緒に病室の前で立ち止まり、しばし演奏に耳を傾けてくれました。

知らぬ間に時は足早に過ぎていきました。ベッドの傍らで「神の子です」(『賛美歌』189番)を演奏していると、病魔に襲われたこの幼子を天の御父がどれほど深く愛しておられるかを思っ胸がいっぱいになりました。ベッツィーを心から愛しておられる天の御父は、音楽を通して彼女が痛みから解放されるように願っておられることを、バイオリンを弾きながらはっきりと知ることができました。

その夜暗くなってから病院を後にしたわたしは、ルイスビルに向かう途中で、しばらく忘れていた祝福師の祝福の言葉を思い出しました。わたしは音楽の才能に恵まれていて、それを伸ばして人に喜びをもたらすようにと言われていたのです。

ベッツィーを通して、主は目的があって一人一人に賜物を授けられるということの思い起こしました。「これらすべての賜物は、神の子たちを益するために神から来る。」(教義と聖約46:26)わたしは御霊のささやきに従うことによって、主が望まれるとおりに、与えられた才能を分かち合う機会を得ました。そして、主がその子供たちにどれほど深い哀れみをかけておられるかを感じる事ができました。■



## 「君を見ていたんだ」

リン・ジェンセン

**あ**れは干し草作り最盛期の夏の日のことでした。隣人のフランク・リースは大量の牧草をすでに刈り終え、露が降りて、干し草を束ねるのに絶好の訪れるのを心待ちにしていました。土曜日の夜、ついにその時が来て、フランクは畑に飛び出し、刈り取った干し草を束ね始めました。

すると隣に住む友人もトラクターのヘッドライトをつけて干し草の束ね作業をしていることに気づきました。彼もこのときとばかりに作業をしていたのです。フランクは何年か前から安息日には働かないという決心をしていたので、その決意を守るために午前0時になる前に作業をやめようと思っていました。でもあの隣人はどうするだろう、と思いました。

刈り取った大量の干し草は束ねるばかりになっています。だれでも、こんなまとない条件の下でなら、もっと作業を続けたいという誘惑に駆られることでしょう。

時は過ぎていきましたが、隣人のヘッドライトはまだ見えます。彼もまだ作業を続けているのです。午前0時まであと数分というところで、フランクは束ね作業をやめて、トラクターをトラックの所まで移動させました。静まり返った暗闇の中で、隣の友人も安息日を守るために作業をやめたことに気づきました。

聖餐会せいさんでこの話をしたフランクは、肩越しに、今では監督をしているその隣人に目をやりました。

「覚えていますか？」

マンズ監督はうなずいて、こう答えました。「あのとき、あいにく時計を持っていなかったんでね、君を見ていたんだ。」■

# 質疑応答

「人生はどうしてこんなに厳しいのでしょうか。  
試練のない日は訪れるのでしょうか。どうしたら試練に耐えられるのでしょうか。」

## 『リアホナ』からの提案

**試**練がなければ人生はもっと楽でしょう。でもそれでは、多くを学ぶことも、成長することもできないでしょう。試練によって、人は謙遜になり、霊的に成長し、主の助けが必要であることを思い出します。試練があることで、平安な時を感謝できるようになります。何より大切なのは、試練は、忠実さを主に示す機会であり、自分で自分の忠実さを確認する機会でもあるということです。

試練の中には、自然災害や愛する人の死など、死すべき生涯で避けて通れないものがあります。これらは当然起こるものと理解していれば、備えができ、耐える力を得られます。

ほかに、間違いや罪といった、自分自身の選択、あるいはだれかほかの人の選択の結果として訪れる試練もあります。良い選択をすれば、この種の試練をかなり避けることができます。難しいのは、ほかの人の選択の結果として起こる試練に耐えることです。友達に裏切られるかもしれません。学校で耳にする汚い言葉に悩まされることもあるでしょう。この種の試練に遭うときには、赦しの心を持ち、いつも忠実であってください。主からの助けと慰めを祈り求めてください。

どれほど試練に耐えられるかはあなた次第

試練を通して、学び、謙遜になり、強くなることができます。

試練の中には、良い選択をすることによって避けられるものもあります。

人生は試験です。試練は忠実であることを示す良い機会です。

主に助けを求めてください。そうすれば、試練に耐えられるよう主が助けてくださいます。

試練のときにはキリストのもとに行ってください。そうすれば、主は休ませてくださるでしょう。

です。試練によって成長する人は、主のそばを離れず、「この経験から何を学べるだろうか」と考えますが、自分で自分を哀れに思う人は「どうしてわたしがこんな目に遭うのだろう」と考えてしまいます。

ニーファイ人とレーマン人の戦争が長期に及んだときに、同じニーファイ人の中でも、人によって受けた影響が違っていたことに注目してください。「多くの者がかたくなになった。戦争が非常に長期に及んだためにそうなったのである。しかし、苦難を受けたために柔和になった者も多く、彼らは神の前に心底謙遜にへりくだった。」(アルマ62:41, 強調付加)すべての人が戦争の影響を受けましたが、皆がその経験から成長することを選んだわけではありませんでした。

試練を堪え忍ぶ方法が幾つかあります。(1) 慰め主である御霊を求めするために、祈る、断食する、聖文を学ぶ、義にかなった生活をする。(2) 人に奉仕する、教会に出席する、神殿に参入する、愛情深い友達や家族と過ごす。これらを行えば、平安が得られます。(3) バランスの取れた見方をするように努力する。試練の中にあっても、人生には良いこともあるのです。(4) 両親や監督・支部長に、試練を乗り切るコツを教えてもらう。

以前自分が味わったのと同じ試練に直面し



写真/デビッド・ストーカー、写真はイメージです

ている人を見て「その人の気持ちがよく分かる。何とか助けてあげたい」と思ったことはありませんか。同じように、救い主はあなたの試練を御自分に引き受けられました。あなたの痛み、病気、誘惑、弱点をも引き受けられたのです。救い主は、完全に哀れみ深く、助けることができになる御方です（アルマ7：11-12参照）。試練のさなかにあるときに、主の次の言葉を思い出してください。「すべて重荷を負うて苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。」（マタイ11：28）

## 読者からの提案



試練に感謝してください。試練も祝福です。神はあなたがどう試練に対処するかをすでに知っておられますが、あなたがどう対処するかをあなた自身にも知ってほしいと願っておられます。天の御父に祈って、必要な力と忍耐力を求めてください。主は必ずあなたを支えてくださいます。

ドイツ、サラ・M、16歳

わたしが試練に遭って以来、監督はわたしのいちばんの友人です。みんなに声を

大にして勧めたいのは、監督に話すことです。監督はあなたを愛していて、助けたいと思っています。それから、祝福師の祝福を受けているなら、度々読んでください。苦しいときに導きが得られますよ。アメリカ、モンタナ州  
ケーシー・H、20歳

神はわたしたちを試すために地上に送られました。試しを受けるのは楽なことではありませんが、成長と進歩に必要なことです。忍耐強くなれるよう特別に祈ってください。慰めが得られるように祈ってください。神はあなたの手を取り、たくさんの祝福をあなたの頭に注いでくださ

います。絶望することなく、福音から離れないでください。福音だけが、真の助けとなるのです。

イタリア, リア・C, 19歳



わたしたちに御父の面影が映るようになるまで、御父は常にわたしたちを試練の炉に入れられます。明るい気持ちで試練に向き合ってください。試練はあなたのためになるのですから! つらいことが多くても、幸せでいてください。それが、いっそう義にかかった人となるための道なのです。試練は、天の御父とイエス・キリストとわたしたちの関係を強めてくれます。慰めを求めて祈り、聖文を探求し、どんなときにも永遠の観点から物事を見てください。

フィリピン, オデッサ・B, 18歳



試練には必ず二つの選択肢があります。試練に屈するか、試練から学ぶかの二つです。道に迷い、孤独だと感じることも時々ありますが、天の御父から離れずにいることが大切です。そうすればつらいときにも、慰めを得ることができます。祈ってください。聖文を読んでください。そして、証<sup>あかし</sup>を強めてください。天の御父とイエス・キリストとの関係が強まるにつれて、試練に耐えるのが簡単になっていきますよ。

カナダ, アルバータ州

リタ・J, 20歳



わたしたちは試され、学び、成長するためにここに来ました。学ぶためには試練が欠かせません。絶えず試しに遭うことで鍛えられ、将来遭遇する大きな試練に立ち向かう備えができます。祈ること、聖文を読むこと、安息日を聖く<sup>まよ</sup>過ごすことによって、耐えることが簡単になります。コリント人への第一の手紙第10章13節にあるように、どんな試練も乗り越えられることを忘れないでください。

アメリカ, ネバダ州

ジェシー・H, 14歳

主は、耐えられないような試練をお与えになりません。試練に遭う度にそのことを思い出して、わた



「生の荷を重く感じるとき、試練に遭い信仰が試されるとき、痛みや悲しみ、絶望で、希望のともしびが揺らぎ、消えかかっているとき、天の御父との交わりが平安をもたらしてくれます。」

第一副管長  
トマス・S・モンソン  
“Finishers Wanted,”  
Ensign, 1989年6月号, 5

しはとても慰められました。これまで経験した苦痛を思い返してははっきり分かるのは、主がわたしを愛しておられること、そして、苦しみを通して、生涯忘れられない何かを学ぶということです。試練を経験することで、同じ経験をする人を助けることができます。主はいつもわたしたちとともに歩んでくださっています。

イギリス, リズ・O, 20歳



地上での生活は試しの期間です。だから、わたしたちは人生の労苦を経験する必要があります。天の御父のもとに戻るのにふさわしいかどうか試されるのです。逆境に遭うと、鉄の棒から手が離れそうになります。でも、キリストに従い、福音に添って生きることで、悪から守られます。この世は、救いの計画の一つの段階にすぎないという信仰があれば、もっと堪え忍ぶことができます。

ブラジル, セルソ・O, 19歳

本誌の答えは、問題解決の一助となるように意図されたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

## あなたの意見を聞かせてください

青少年の読者の皆さんへ——下記の質問に対する意見を、氏名、生年月日、住所、ワードおよびステーク(または支部および地方部)を明記のうえ、写真を添えて(写真掲載に対するご両親の許可書とともに)、下記まで郵送か電子メールでお送りください。

あて先——Questions & Answers 9/06  
50 E. North Temple St. Rm. 2420  
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA  
電子メールアドレス——

liahona@ldschurch.org

2006年9月15日必着で送付してください。

## 質問

「安息日を聖く過ごすにはどうすればいいでしょうか。してはいけないことばかり考えてしまいませんか。どうすれば、安息日を『何もできないつまらない日』ではなく、『楽しみに待ち望む日』にできるでしょうか。」 ■



# 御存じでしたか？



## ナイジェリアの楽しい活動

昨年、ナイジェリア・アベオク

タ地方部のアロン神権者たちは、アロン神権を記念する活動に集まりました。すべての神権者とその友人が招かれました。父親と息子、神権者と友人と一緒に参加し、ゲームをしたり、一般的なナイジェリア料理のジョロフライスを食べたりしました。指導者とは仕える人であることを示すかのように、支部長たちが食事を配膳しました。参加者は食事を終えると、



## それは8月の出来事でした

1829年8月25日——マーティン・ハリス(右)は、モルモン書の印刷代を工面するため、自分の農場を抵当に入れることに同意しました。1830年に5,000部が印刷されました。

1953年8月5日——デビッド・O・マッケイ大管長は、スイス神殿(現在のスイス・ベルン神殿)の<sup>くわ</sup>鍬入れ式を行いました。これはヨーロッパで最初の神殿でした。

マーティン・ハリスの絵/レイス・A・ラムジー  
賛美歌の写真/ジョン・ルーク  
背景/スコット・ヌードセン



それぞれ自分の使ったお皿を洗いました。若い男性たちは「家でも皿洗いを実践するように」と勧告を受けました。

神権の回復を記念した若い男性の演劇には皆が心を打たれました。彼らは、1829年5月15日に、バプテスマのヨハネが預言者ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリにアロン神権を回復した出来事を演じたのです。

「福音や教会が、教会の若人にとって楽しいと感じられるようにしてください」(ニューヨーク州ニューヨーク・シティー、ラジオ・シティー・ミュージック・ホールにおける説教、2005年6月12日付けから引用)と語ったゴードン・B・シンクレイ大管長に従い、ナイジェリアの執事、教師、祭司、長老たちは、協力して演劇や奉仕を行い、大きな喜びを見いだしました。

1973年8月1日——日本名古屋伝道部と、タイ・バンコク伝道部が組織されました。

1985年8月2日——教会は37年ぶりに新しい英語の賛美歌を発行しました。21の言語に翻訳され、現在も使用されています。

## 教会の言葉

「福千年」(Millennium)——英語で「millennium」とは1,000年間のことです。教会でいう「福千年」(Millennium)とは、救い主の再臨の後の1,000年間のことを指します。そのとき、「キリスト〔は〕自ら地上を統治され」ます(信仰簡条1:10)。

福千年とは、地上に義と平安があり、すべての人が善良で正しくなるときです。教会員は伝道活動や神殿の業で忙しくなるでしょう。

1,000年の終わりには、サタンが「しばしの間解放されて、自分の軍勢を集め」ます。彼らはアダム<sup>の</sup>率いる天の軍勢に戦いを挑みます。そしてサタンとサタンに従う者たちは戦いに敗れ、永遠に追放されることとなります(教義と聖約88:111-115参照)。



「だれもが人生で導きを必要としています。最良の導きは、標準聖典と神の預言者の教えから得られます。」

## 十二使徒定員会

ラッセル・M・ネルソン

「聖文の導きに従って生活する」

「リアホナ」2001年1月号、22





## 読者からの便り

### 主はいつも助けてくださいます

『リアホナ』に投稿しているすべての人に感謝しています。どの記事も、わたしを高めてくれます。家族は、わたし以外会員ではありません。そのような状況でイエス・キリストの福音を実践していくことがどれほど難しいか分かっています。けれども、主はいつも助けてくださいます。その助けの一部が『リアホナ』です。

ブラジル  
アリーン・ゴンサルベス・ダ・シルバ

### 絶えることのない祝福

『リアホナ』のおかげで、わたしの生活に絶えず祝福が注がれています。『リアホナ』の記事は、わたしの心の奥に訴えかけてきます。2003年10月に家族全員でバプテスマを受けたことは、特別な祝福でした。それ以来、『リアホナ』は家族全員に常に祝福を注いでくれています。

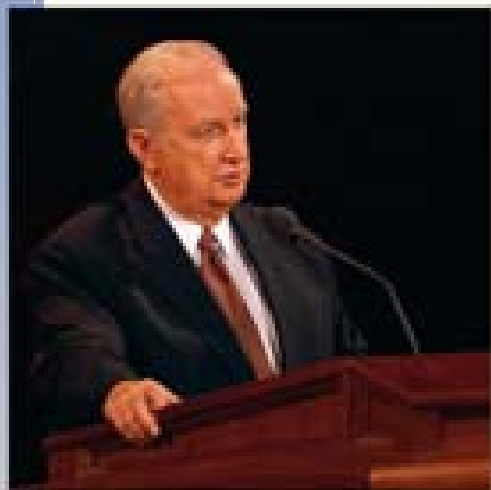
ペルー  
ジェシカ・リセス・シンチェ・ウルガン

### 伝道に出る望み

わたしは8歳のころから伝道に出たいと思ってきました。現在15歳で、主に仕えたいと望んでいます。『リアホナ』2005年7月号「ある宣教師の願い」を読んだとき、伝道に出る備えを始めるべきだという靈感を受けました。記事の若い男性は、伝道に出るために多くの犠牲を払いました。わたしにも同じことができます。

「良い知らせ」である『リアホナ』を世界中に発行するために働くすべての人に感謝を表したいと思います。『リアホナ』はわたしたちに靈感を与え、素晴らしい祝福を得させてくれます。

フィリピン  
ジュリアス・J・アンドラダ



### 完全な喜び

翻訳など、『リアホナ』の発行にかかわっている皆さん一人一人に感謝しています。皆さんのおかげで、預言者と中央幹部の言葉を手にするという祝福を受けているからです。

わたしは子供のときにバプテスマを受けましたが、長い間教会から遠ざかっていました。十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老のお話(2004年10月の総大会)を聞いたとき、彼の言葉によって、救い主がわたしを罪から贖<sup>あがな</sup>うことができになると信じることができました。アルマが語った「心の変化」を経験し、完全な喜びを得たのです。

メキシコ  
アラセリ・アロヨ・ロメロ

# 道案内が必要ですか?

**リ**アホナはリーハイとその家族を導きました。同様に、機関誌『リアホナ』は、福音を学び続ける新会員にとって羅針盤のような存在です。

2006年10月号は、新会員のための特集号になる予定です。特集号を新会員と一緒に読んだり、贈呈用として購読の申し込みをしてあげたりすることで、新会員の友人を助けることができます。注文に関する情報は、地元の配送センターにお問い合わせください。



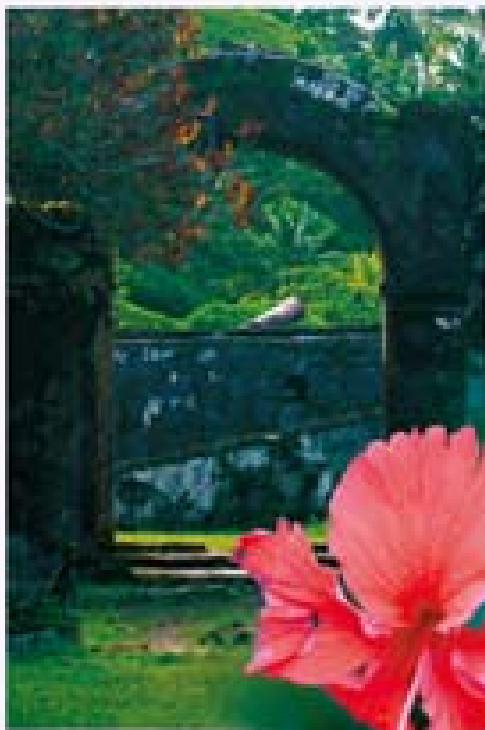


聖書の挿絵の傑作

### 「ししの穴のダニエル」スコット・グスタフソン画

「〔王は〕ダニエルのいる穴に近づいたとき、悲しげな声をあげて呼ばわり、……言った、  
『生ける神のしもべダニエルよ、あなたが常に仕えている神はあなたを救って、ししの害を免れさせることができたか。』

ダニエルは王に言った、『王よ、どうか、とこしえに生きながらえられますように。  
わたしの神はその使をおくって、ししの口を閉ざされたので、ししはわたしを害しませんでした。』(ダニエル6:20-22)



**若**い末日聖徒たちは、  
生涯にわたって  
身に付けて

いかなければならない

個人の徳質の礎を築いている。

何百年も昔から残るオールドパナマ(表紙)と

ポルトベロ(上)の廃墟から

若人は大切な教訓を学んでいる。

